

# 地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —

## 2016年度 活動報告集



## はじめに

日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）では、社会貢献活動として2012年度に「CO・OP共済地域ささえあい助成」を開始し、2016年度に5年目を迎えました。

生協は、くらしを向上させることを目的に事業を進めていますが、昨今の少子高齢化、貧困など、くらしに関する困難は、地域社会全体に目を向け、他団体・行政とも一緒になって必要な取組みを行わなければ解決できない状況になってきています。そのため、本助成では、生協と他団体がネットワークを形成しながら問題を解決していく活動を支援することにしており、あわせて、次の3つのテーマにそった取組みを助成の対象としております。

①くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

②命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

③女性と子どもが生き生きする

2016年度は58件のご応募をいただき、審査委員会において38件、2,285万1,428円の助成を決定しました。なお、選定にあたっては次の選考基準を設け審査を進めました。

### 選考基準

①生協と地域の他団体との協同により成り立つ活動であること、②計画の実現性、③予算計画の妥当性、④対象者のニーズに基づく活動であること、⑤多様な地域住民の関わりや参加度、⑥活動の新規性や先駆性

※過去に助成を受けたことのある団体では、取組みの発展性にも着目しました。

※協同の取組みができていくかという点では、他団体と協同することで新たな広がりが期待できるか、または、生協がしっかり役割を発揮できているかを着眼点としました。

### ♥活動5年目を迎えて

本助成は2016年度で5年目を迎えました。協同の輪の広がりを感じさせる実践申請が多くみられ、助成金満額の100万円の助成団体は昨年の3団体から7団体に増えました。特に、7団体のうち6団体は新規団体であり、フードバンク等の新たな活動で、且つ生協の役割も明確なことから減額することなく助成することとなりました。しかしながら、一部には内向きの行事的活動も見られました。上記の選考基準を参考に、次年度以降の応募では、より発展的な活動を申請されることを期待します。

2016年度は、助成団体や応募を検討している団体を対象に、初めての団体交流会を開催しました。東京と大阪の2会場で計90名にご参加いただき、参加者からは「他団体の事例を聞けて良かった」「協同の形が具体的に見えた」「自分たちの活動に活かしていきたい」など、前向きな意見が数多く聞かれました。住環境が急激に変化する地域の中で、団体交流会から学び取った協同の力を生かし、住民の皆さんを巻き込んだコミュニティの再構築を実践されることを期待します。

### ♥さらなる発展を目指して

今日、求められる地域共生社会づくりの活動は、生協とともに活動する団体との連帯が不可欠であり、本助成がそのきっかけになることを切に願います。そのために、地域でのネットワーク形成の促進や助成応募がより活発になるよう、2017年度も団体交流会を開催し、助成の条件の一つである「協同の取組み」について、具体的なモデルを明らかにしていきます。今後も、生協と地域の団体が一緒になって取り組むことにより、地域に根差した活動がさらに促進されることを期待しています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2016年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会  
委員長 上野谷 加代子（同志社大学 社会学部 教授）

はじめに	1
2016年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 上野谷 加代子(同志社大学 社会学部 教授)	
2016年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成」助成先一覧	4

### 活動報告集

## テーマ 1 暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する

■ 地域つながりセンター 諸団体・行政と協働ですすめる「安心して住みつけられる地域づくり」	7
■ 特定非営利活動法人 きょうどうのわ なんでも相談サロン Part II	8
■ NPO法人 ファザーリング・ジャパン関西 (FJK) 家族みんなが大喜び! 頼りになるパパ育てプログラム! 2016	9
■ 庄内医療生活協同組合 (上郷支部) 協同の地域ささえあい支援をめざして、たまり場「ちよさんの家」の取組み	10
■ 松島医療生活協同組合 人口減少が進む田舎で高齢者の居場所づくり (食事会等)	11
■ 特定非営利活動法人 ぎふ市民協 岐阜県でも、高齢や障がいの方を地域で支えられる「後見の社会化」をめざして	12
■ 特定非営利活動法人 福祉活動と福祉教育の推進協会 あすなる 大阪の中心で、高齢者・障がい者福祉を叫ぶ	13
■ 特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフアゲイン 安定した食料の質と在庫の確保および食糧支援を通じた子育て支援	14
■ 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア 宮城県南三陸町、及び宮城県漁協志津川支所への支援活動	15
■ 生活協同組合コープあおもり 福島の子ども保養プロジェクト in コープあおもり コープあおもりねぶたツアー	16
■ ろっこう医療生活協同組合 神戸の名産のイカナゴのくぎ煮を組合員の手で作り、 東北の被災地に持参し、被災者に手渡す	17
■ 福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会 2016福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川	18
■ 生活協同組合コープしが 生協と社協による住民の暮らしを支えるプロジェクト	19

## テーマ 2 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

■ 特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター 過疎市町村における介護予防事業を協働で立ち上げる	21
■ 福井県民生活協同組合 ハーツきっず羽水 命をテーマに考え・学び、今日がある幸せを感じてもらおう	22
■ 生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会 だれもが集えるたまり場づくり	23
■ きらくクラブ みんなで作ろう! 私たちの居場所「きらくクラブ」	24





■ 非営利公益市民活動団体 コミュニティ マーガレット ボール体操で楽しく健康づくりを広げようプロジェクト	25
■ 鹿児島県生活協同組合連合会 地域の力で住民本位の地域包括ケアを実現する活動を進めます	26
■ 特定非営利活動法人 フードバンク信州 フードバンク活動普及・啓発事業	27
■ 認定NPO法人 フードバンクふじのくに フードバンクを活用した命を守り、環境を守る活動	28
■ 生活クラブ生活協同組合（神奈川） 東日本大震災・復興支援まつり2016	29
■ 生活協同組合あいコープみやぎ お茶っこケア 地域サロン「よってがいん」	30

### テーマ 3 女性と子どもが生き生きする

■ 認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク 学齢期にある低所得母子家庭等へのフードバンクを利用した米の定期支援による 家計支援・生活相談支援（奨学米プロジェクト）	31
■ 特定非営利活動法人 ポトスの部屋 子ども・若者の居場所の提供と生活困難家庭の中学生らの学習支援並びに相談活動	32
■ 生活協同組合コープこうべ Kids Creative City! コープこうべ2016 ～子どものまちづくり～	33
■ 生活サポート生活協同組合・東京 子育て・親育てを通じた当事者のエンパワーメントと地域社会づくり	34
■ 特定非営利活動法人 エー・ビー・シー野外教育センター 子育てママの「心も体も気軽な学び場」事業	35
■ 一般社団法人 WITHs 産前産後の女性を中心とした多世代交流	36
■ 生活協同組合コープ自然派奈良 子どもたちがイチからつくるティーパーティ	37
■ 特定非営利活動法人 いなほ 地域住民が主体となって行う子どもの健全育成等を目的とした 共生型「子ども食堂」の立ち上げ、運営支援	38
■ コープみらい地域クラブひだまり いじめ・不登校・ひきこもりから希望を創る活動	39
■ NPOまなびや@KYUBAN 多世代交流事業「九番サンデー劇場+もちより茶話会」	40
■ 特定非営利活動法人 ユースコミュニティー 地域子ども未来塾（低学力など、学習環境に困難を抱える子どもの学習教室）	41
■ 新潟県立大学南相馬市子ども支援プログラム 南相馬市児童クラブにおける「交流おやつタイム」を活用した子ども支援プログラム	42
■ NPO法人 福島の子もたち香川へおいでプロジェクト 福島とその近県の子もたちの保養プログラムと避難者支援および広報・啓発活動	43
■ 生活協同組合コープおおいた ふくしまっ子応援プロジェクト6	44
♥ 2016年度 募集要項	46

# 2016年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 助成先一覧

1

くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する

## ■地域つながりセンター

《協同団体》

- JALしまね〈本店・くにびき地区本部〉
- 松江保健生活協同組合
- 生活協同組合しまね
- 松江市社会福祉協議会
- おたがいさままつえ
- おたがいさまいずも
- おたがいさま雲南
- 島根県社会福祉協議会
- 古志原公民館
- すまいリーねっと
- 松江市地区社会福祉協議会会長会

## ■特定非営利活動法人 きょうどうのわ

《協同団体》

- 生活協同組合コープこうべ 第3地区活動本部
- 神戸市東灘区社会福祉協議会

## ■NPO法人

ファザーリング・ジャパン関西(FJK)

《協同団体》

- 大阪いずみ市民生活協同組合
- 和泉市総務部人権・男女参画室
- 藤井寺市市民生活部協働人権課
- 藤井寺市人権のまちづくり協会
- 堺市子ども青少年育成部子ども企画課
- 社会福祉法人 公和会 陶器北こども園
- 岸和田市社会福祉協議会
- 岸和田市ボランティア連絡協議会

## ■庄内医療生活協同組合(上郷支部)

《協同団体》

- 鶴岡市上郷地区自治振興会
- 鶴岡市大谷自治会
- 大広地区熊野長峰MG研究会
- 生活協同組合共立社
- なんば助産院

## ■松島医療生活協同組合

《協同団体》

- なでしこ会

## ■特定非営利活動法人 ぎふ市民協

《協同団体》

- 生活協同組合コープぎふ くらしたすけあいの会

## ■特定非営利活動法人

福祉活動と福祉教育の推進協会 あすなる

《協同団体》

- 福島医療生活協同組合  
認知症デイサービスセンターたんぼぼ
- 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ会 福島育成園
- NPO法人 あそびりクラブ
- 社会福祉法人 日本ライトハウス
- 地域生活支援センター こころの相談35室リーフ
- 社会福祉法人 淳風会
- 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ会 居宅支援事業所
- まちの電気屋さん きょうりつ ●長谷川美容室
- ダイアログ・イン・ザ・ダーク

## ■特定非営利活動法人

フードバンク北九州ライフアゲイン

《協同団体》

- グリーンコープ生活協同組合ふくおか
- 食品ロス削減学生プロジェクト Team

## ■東日本大震災復興支援

京都生協職員ボランティア

《協同団体》

- 古屋でがんばろう会 ●志賀郷地域振興協議会
- 鳥取県畜産農業協同組合
- みやぎ生協ボランティアセンター
- 宮城県漁協志津川支所 ●登米市仮設住宅自治会

## ■生活協同組合コープあおもり

《協同団体》

- 青森中央学院大学 ●青森中央短期大学
- 福島県生活協同組合連合会 ●青森保健生活協同組合

## ■ろっこう医療生活協同組合

《協同団体》

- 特定非営利活動法人 花たば ●こうべ保健サービス

## ■福島の子どもの保養プロジェクト in 神奈川実行委員会

《協同団体》

- 東日本避難者連帯事業実行委員会

## ■生活協同組合コープしが

《協同団体》

- 高島市社会福祉協議会

(13団体) 7,343,050円



## 2

## 命を守り、その人らしい生き方ができるようにする

### ■ 特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター

《協同団体》

- 生活協同組合コープさっぽろ
- 北翔大学

### ■ 福井県民生活協同組合 ハーツきつず羽水

《協同団体》

- 子育て支援団体 ぽぽぽの会
- 日赤福井県支部 看護師
- 日本自動車連盟 (JAF)
- 保健師・助産師
- 福井県安全環境部 県民安全課

### ■ 生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会

《協同団体》

- 榎本地域活動協議会 13町会
- ヘルスコープおおさか

### ■ きらくクラブ

《協同団体》

- ユーコープかながわ  
たすけあいネットワークセンター

### ■ 非営利公益市民活動団体 コミュニティ マーガレット

《協同団体》

- ネット五條
- 奈良県医療福祉生活協同組合 南和委員会

### ■ 鹿児島県生活協同組合連合会

《協同団体》

- 鹿児島県社会福祉協議会
- 鹿児島県
- 社会福祉法人 鹿児島虹の福祉会

### ■ 特定非営利活動法人 フードバンク信州

《協同団体》

- 長野県生活協同組合連合会
- JA長野中央会
- 長野県労働者福祉協議会

### ■ 認定NPO法人 フードバンクふじのくに

《協同団体》

- 生活協同組合ユーコープ

### ■ 生活クラブ生活協同組合 (神奈川)

《協同団体》

- 神奈川IW.Co連合会
- NPO法人 WE21ジャパン
- 公益財団法人 共生地域創造財団

### ■ 生活協同組合あいコープみやぎ

《協同団体》

- NPO法人 お茶っこケア
- NPO法人 井戸端介護
- 特定非営利活動法人 笑いの館四季
- マルトク丹野商店
- 石巻仮設住宅自治連合推進会
- 石巻市渡波栄田第二地区
- 生活協同組合あいコープみやぎ



(10団体) 5,802,998円

## 3

## 女性と子どもが生き生きする

## ■認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク

《協同団体》

- とちぎコープ生活共同組合
- 生活クラブ生活協同組合 栃木
- フードバンク鹿沼（鹿沼市社会福祉協議会）

## ■特定非営利活動法人 ポトスの部屋

《協同団体》

- みなと医療生活協同組合
- あいち定時制・通信制父母の会
- ポンペミンタル

## ■生活協同組合コープこうべ

《協同団体》

- 特定非営利活動法人 cobon

## ■生活サポート生活協同組合・東京

《協同団体》

- NPO法人 ゆったりーの
- NPO法人 ワークスコープ東京中央事業本部  
（北山伏地域交流館）
- 遊葉館 ●生活協同組合パルシステム東京

■特定非営利活動法人  
イー・ビー・シー野外教育センター

《協同団体》

- グリーンコープ生活協同組合おおいた
- ワークス・コレクティブキッチンスタジオ すまいる
- 社会福祉法人 グリーンコープ  
福祉サービスセンター であい・ふれあい

## ■一般社団法人 WiTHs

《協同団体》

- コープこうべ福祉介護事業部

## ■生活協同組合コープ自然派奈良

《協同団体》

- NPO法人 奈良NPOセンター
- NPO法人 奈良ストップ温暖化の会
- 奈良の学校給食を考える会

## ■特定非営利活動法人 いなほ

《協同団体》

- 岩手県生協連合会 ●滝沢市社会福祉協議会
- わらしゃん丼

## ■コープみらい地域クラブひだまり

《協同団体》

- 不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』
- 青空の会（我孫子）
- 学校に行かない子を持つ親の会吉川

## ■NPOまなびや@KYUBAN

《協同団体》

- みなと医療生活協同組合 九番団地支部

## ■特定非営利活動法人 ユースコミュニティー

《協同団体》

- パルシステム東京 ●大田区社会福祉協議会
- セカンドハーベストジャパン

## ■新潟県立大学南相馬市子ども支援プログラム

《協同団体》

- 生活協同組合コープにいがた
- 南相馬市教育委員会

## ■特定非営利活動法人 みやこラボ

《協同団体》

- みやこ映画生活協同組合

■NPO法人 福島の子もたち  
香川へおいでプロジェクト

《協同団体》

- 香川県 ●高松市 ●坂出市
- 香川県教育委員会 ●高松市教育委員会
- 坂出市教育委員会 ●コープ自然派しこく
- 高松市消防職員協議会
- 東北ボランティア有志の会香川
- 香川子どもといのちを守る会

## ■生活協同組合コープおおいた

《協同団体》

- 大分県社会福祉協議会
- 大分県ボランティア連絡協議会
- エフコープ生活協同組合
- コープさが生活協同組合

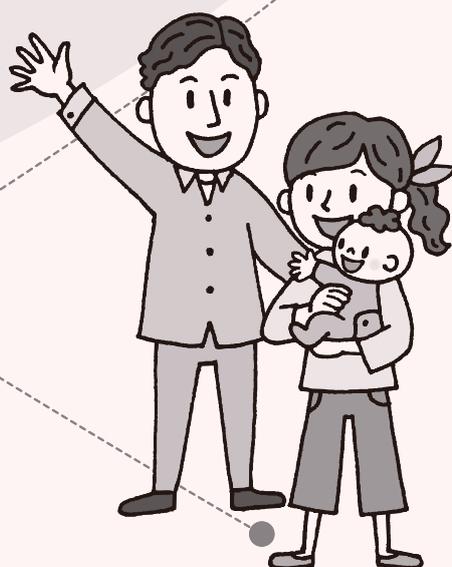
(15団体) 9,705,380円

※一部、申請金額より減額により助成とする。

総合計 (38団体/応募：58団体)：22,851,428円



**くらしを守り、  
くらしの困りごとの  
解決に資する**





# 地域つながりセンター

## 活動名 | 諸団体・行政と協働ですすめる「安心して住みつづけられる地域づくり」

### 活動のきっかけ

2008年、松江保健生協と生協しまねが「だれもが安心して住み続けられる地域づくり研修会」を立ちあげました。アンケートの実施や報告会等を地域の諸団体に向けて開催する中で、活動に参加いただいた地域の6団体(松江市社協、地区社協会長会、JAしまね本店・くにびき地区本部、松江保健生協、生協しまね)とも協同し、2011年度から地域ケア連携推進フォーラムを開催してきました。数年にわたる関係を基に、地域課題への年間を通じた話し合いの必要性を感じ、2014年「地域つながりセンター」を立ち上げました。行政を含む各団体や個人が個別に行っている事業や活動は、いまだネットワーク化されていませんが、住民一人ひとりの暮らしや想いにそって「コーディネートする機能」を地域の中に創りだすという大きな課題に向かっています。

### 活動内容概要

1. 多世代にわたる地域包括ケア体制づくりの活動を実施しました。
  - ① 古志原公民館区における高齢者を支える包括ケア体制づくり
  - ② 「なないろ食堂」(多世代による子ども支援の包括ケア体制づくり)
  - ③ 生きづらさを抱える若者を支える地域づくり
2. 地域つながりセンターとして、会報を年2回発行し、地域にも配布しました。
3. 「全国おたがいさま交流集会 in 神在月」を実施しました。

2016年11月、3日間にわたり開催され、40団体から188名が参加、活動の意義を再確認するとともに、交流を深めました。
4. 「第7回地域ケア連携推進フォーラム」を実施しました。
5. 住民自身の運営による有償たすけあいシステム「おたがいさま」活動を支援しました。

新設のおたがいさま「益田」「おき」に対し、当センターと生協しまねが協力し運営継続の支援を行いました。



### 協同した団体

- JAしまね(本店・くにびき地区本部)
- 松江保健生活協同組合
- 生活協同組合しまね
- 松江市社会福祉協議会
- おたがいさままつえ
- おたがいさまいずも
- おたがいさま雲南
- 島根県社会福祉協議会
- 古志原公民館 ●すまいるーねっと
- 松江市地区社会福祉協議会会長会

### 地域の概要

島根県は少子・高齢・過疎の「先進的」な地域であり、地域コミュニティの弱体化も急速に進行しています。これまでの地縁型、血縁型にとどまらない高齢者、子ども、障がいやひきこもり等への生活支援、公的サービスのネットワークづくりは、喫緊の課題となっています。

### 他団体と協同することで発見したこと

活動において連携協同する団体が「核になる」ことで、地縁組織のつながりのみでなく、関心や参加意欲のある方々の新たな拠点となりやすく、既存の団体が新たな取組みや協力を申し出るなど、地域活動にも良い影響を与えはじめました。また、団体どうしの相互理解が進み、「一緒にすれば、なにかができてう！」という想いもでてきています。

### 将来イメージ

現在の3つの活動が地域の中で自立的に運営されるよう基盤強化をすすめ、地域のインフラとしていくことを目指します。加えて、松江圏域での協同・連携活動にとどまらず、県内他圏域においても、諸団体連携の活動を生み出していきたいと考えています。また、協同組合のみならず、企業や法人等多様な連携で「安心して過ごせる地域づくり」の具体的なカタチづくりをすすめます。

### 成果と教訓

#### 成果

2015年度から「松江市地域福祉計画策定委員」として行政への参画の機会を得ていますが、引き続き、松江市より『松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会』委員の委嘱を受けています。加えて、「おたがいさま」システムの特徴である「だれでも、いつでも、どんなことでも」の理念、他との連携の姿勢が、住民自身と専門家との連携で支えあうモデル的活動と認められ、研修視察の希望など、広くから関心が寄せられています。

#### 教訓

貧困等がテーマになった活動については、協力や理解が得がたい場合がありますが、あきらめず働きかけを行いたいと考えています。目的を持ち、柔軟に取組みをスタートさせることが、私たち大人に出来る地域づくりの一步と信じています。

# 特定非営利活動法人 きょうどうのわ

## 活動名 | なんでも相談サロン Part II

### 活動のきっかけ

地域の変化が進むにつれ、住民意識は「商業施設の誘致などで町のにぎわいを求める」ことから、「助け合いのまちづくり」に転換しつつあります。東灘区全体を見ても、多子高齢の傾向で、新しい地域づくりに踏み出す転換期を迎えています。地域で暮らす人々が、お互いに支え合いつながりあえる、新しい地域活動の在り方を提案しお手伝いしていくため、活動がスタートしました。

### 活動内容概要

コープこうべ・東灘区社協と連携し、東灘区7地域で課題を整理、解決策を話し合いました。小地域の居場所（専門職含む）ネットワークをより強固なものにしながら、課題解決の活動を始めるきっかけ作りを行い、うち2地域では実際に活動し始めました。

具体的には、居場所運営者向けサロンを7回、コープこうべのイベントで専門職ユニットによる出前相談会を2回、東灘区居場所全体交流会で7エリアに分かれたグループワークを1回、先行モデル2地域（住吉、本山）での会合を各3回行いました。また、年度末には2016年度活動報告書・マップ（住吉）・通信（本山）を発行しました。



### 協同した団体

- 生活協同組合コープこうべ 第3地区活動本部
- 神戸市東灘区社会福祉協議会

### 地域の概要

活動拠点である人工島・六甲アイランド（人口18,000人）はまち開きからもうすぐ30年を迎えます。定年後世代が目立つようになりましたが、住環境の良さから若い子育て世代も同時に増えており、多子高齢化がすすんでいます。



### 他団体と協同することで発見したこと

コープこうべ・東灘区社協は阪神大震災後の被災者向けサロンから長く活動をリードしてきました。その積み重ねから、客観的かつ具体的なアドバイスを受けることができ、懐の深さと歴史の重みを感じるとともに、両団体からおおいに学ばせてもらっています。逆に、生協や社協と接点がない住民主体の活動グループや他業種の専門職・NPOなどを両団体に引き合わせる事ができたのはNPOの強みでもありました。また、先行するモデル地域の活動のサポートも、3団体の中でより自由度の高いNPOが果たすべき役割であると認識しています。

### 将来イメージ

生協・社協・NPOが本活動のために初めて集まったことももちろんですが、高齢・障がい・子育てなど分野の違う団体が顔を合わせたことも画期的でした。このような「多様な団体のネットワーク」が継続していくと、大きな地域資源となると考えています。小地域のコアとなる人、コーディネーター役を果たせる人材が本活動の参加者から現れることを期待しています。また、居場所と専門職が繋がることで、介護予防や相談のアウトリーチが進み、地域包括ケアの一翼を担うようになりたいと考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

活動2年目を迎え、コープこうべや社協でも「なんでも相談サロン」の経験を踏まえながら、「居場所」をキーワードにした発信を内外に行うなど足並みが揃ってきました。

今年度参加したNPO、専門職は70団体以上にのぼり、ともに増加しました。地域での居場所同士、居場所と専門職の協力関係（人を紹介しあう、相互訪問する、情報を教え合う）が強まり、共に地域を支えるという連帯感にも発展してきています。また、地域課題の解決に向けて、モデル地域で自主活動が始まりました。通信やマップを試作したことで、居場所運営者に地域資源としての自覚が出てきています。他地域からも本事業を高く評価され、研修、講演の依頼がありました。

#### 教訓

交通網や会館の不足などの課題をかかえた周辺部（海沿い、山沿い）では、自助・共助だけでは解決しがたく、行政や制度の対応が待たれます。小地域のくらしの困りごとを課題整理し、自助・共助・公助が役割分担しながら解決していくことが大切なのではないかと感じるとともに、地理的要因が大きいことから、どの範囲で生活圏を切り取るかが非常に重要であるということもわかりました。

# NPO法人 ファザーリング・ジャパン関西 (FJK)

## 活動名 | 家族みんなが大喜び! 頼りになるパパ育てプログラム! 2016

### 活動のきっかけ

家事、育児に主体的に関わり、家族間のコミュニケーションをしっかりとれる頼りになる父親を増やすことで、母親の家事、育児の負担を夫婦で共有し、イキイキした夫婦、イキイキとして自尊心の高い子どもを増やすことを目的としてスタートしました。

### 活動内容概要

父親が子育てを楽しみながら学ぶことが出来るフィールドワーク、家事への参画を増やすための講座、子育てをもっと楽しみたくなる講座を開催しました。また、参加したパパ達の父親ネットワークを築き、地域でのパパ達のつながりを育み、子育てや家事、働き方、地域のおすすめ情報等々を共有できる双方向で多様性ある場を立ち上げます。加えて、地域の行政や各団体の方々とプログラム開催に向けた準備を通して、つながりを育み、強め、その上で地域のパパ達、ママ達と他団体の方々とのつながりの橋渡し役として斜めの関係を築いていくことを意識した取組みにしました。

#### ●父子料理「パパとデコろう! 簡単ふんわりパパオムライス!」

和泉市との共催で開催し、計35人が参加しました。

#### ●フィールドワーク「パパクエスト」

藤井寺市、堺市、岸和田市で計3回開催し、203家族にご参加いただきました。



### 協同した団体

- 大阪いずみ市民生活協同組合
- 和泉市総務部人権・男女参画室
- 藤井寺市市民生活部協働人権課
- 藤井寺市人権のまちづくり協会
- 堺市子ども青少年育成部子ども企画課
- 社会福祉法人 公和会 陶器北こども園
- 岸和田市社会福祉協議会
- 岸和田市ボランティア連絡協議会

### 地域の概要

イクメンという言葉が定着してきましたが、活動地域でもまだまだ子育てを母親一人で行う孤育て家庭が多く存在します。



### 他団体と協同することで発見したこと

今年度のプログラムの開催を通して、本当に多様なシナジーが生み出されること、行政、各地域団体、大阪いずみ市民生協、FJKそれぞれの協働を育み、地域をより元気に盛り上げる枠組みにつながる事がわかりました。

行政にとっては、重要施策の課題解決、ターゲットである子育て世帯層への働きかけや集客、また、コンテンツ不足や財源不足を補うことができました。大阪いずみ市民生協では、市の広報や他の団体の多様な媒体を通して、様々な切り口での広報により、今までとはまた違った市民ターゲットへの働きかけが出来るようになりました。また、他の地域団体の取組みや思いを、多くの参加者に伝えることが出来ました。

### 将来イメージ

活動を続けていくことで、地域での関係性をより一層意識したプログラムへ、深化させていきます。

大阪いずみ市民生協とのつながりをさらに深め、地域での行政との縦の関係、地域団体との横の関係、また、FJKメンバーとパパ達、ママ達との横の関係、これらを充実していくと同時に、我々が橋渡し役となり、地域のパパ達ママ達や行政、地域団体との斜めの関係の構築にもつながってほしいです。

そうしていくことで、男性の家庭回帰、地域参画をより一層進め、女性と子どもが生き生きする社会の実現につながっていきます。

### 成果と教訓

#### 成果

4つのプログラムを通して、総勢403人の方々にご参加いただきました。大阪いずみ市民生協をはじめ、和泉市、堺市、社会福祉法人 公和会陶器北こども園、藤井寺市、藤井寺市人権のまちづくり協会、岸和田市社会福祉協議会、岸和田市ボランティア連絡会、各キーマンの方々34名の皆さんとご縁をいただきました。また同時に、プログラム参加者の皆さんが、各地域への新しい視点で興味関心を持つことにもつながったと考えています。

行政と共催が出来た地域では、広報や行政作成のチラシに大阪いずみ市民生協の名前や地域ささえあい助成の文言を記入しただけで、ささえあい助成の趣旨や大阪いずみ市民生協の取組みが広く周知できました。

#### 教訓

各行政によって、協同の取組みへの温度差が大きかったです。私たちは行政との共催をひとつの目的にしていたのですが、多くの行政にとって「共催という形にはなかなか乗って来づらい(乗れない)地域が多かったです(予算のある事業以上のことを行わないし、他の予算でのものとなると、特定の団体の為、公平性を損ねる等々の理由にて)。ただ、その中でも今回が2年目の開催ということで、より深い形(市の広報媒体へささえあい助成の文面が入った)での共催が出来た地域もあれば、先方のニーズをくみ取った新たな形での提案で、共催を行える地域もあり、こちらが思っていた以上の共催のかたちはとれたとも考えています。

# 庄内医療生活協同組合（上郷支部）

## 活動名 | 協同の地域ささえあい支援をめざして、たまり場「ちよさんの家」の取り組み

### 活動のきっかけ

私たちの地域は、全世帯の65%が庄内医療生協及び共立社鶴岡生協の組合員家庭になっており、長年、支部や班活動に地道に取り組んできました。「一人ぼっちのお年寄りをなくそう」「協力・協同の力で安心して暮らせる地域にしよう」と、2012年9月、空き家を借りて、たまり場「ちよさんの家」をスタートしました。

### 活動内容概要

1. 絵手紙教室や里山ハイキング教室、ミニ農園教室、うたごえカフェ教室など、地域の魅力を生かした生きがいづくり・仲間づくりに取り組みました。
2. 介護予防教室やエンディングノート教室、産前産後のケア・ベビーママカフェ教室など、「地域まるごと健康づくり」と主体的健康度アップに取り組みました。今年度は認知症予防教室も新設しました。
3. 買い物に困っている高齢者や地域のため、生協買い物バスの運行や見守り支援などの買い物支援に取り組みました。



### 協同した団体

- 鶴岡市上郷地区自治振興会
- 鶴岡市大谷自治会
- 大広地区熊野長峰MG研究会
- 生活協同組合共立社
- なんば助産院

### 地域の概要

鶴岡市上郷地域は、世帯数が700戸、65歳以上の人は約30%、医療機関はなく、介護施設は民間1か所だけでとても不便です。また買い物に出かけるにも足のない人たち、一人暮らしで病気の人などは大変困っています。過疎と高齢化が進んでいる典型的な農山村地帯です。



### 他団体と協同することで発見したこと

空き家を借りてたまり場活動を始めて5年、昨年8月にこの家を庄内医療生協に購入してもらい今は安心して活動しています。医療生協の全面的な支援・協力を受け取り組んできた甲斐があったと組合員一同大変喜んでます。また、地域の諸団体や個人などの協力を得ながらたまり場活動に取り組んできたことで、生協や医療生協に関心のなかった地域の人たちが、ちよさんの家の教室に顔を出してくれます。たまり場活動を通して生協や医療生協が地域に広がっていることを改めて実感しています。

### 将来イメージ

空き家借用から常設のたまり場施設になりましたので、今後尚一層、たまり場ちよさんの家の活動を地域の中に広めていきたいと思えます。また、2017年4月からスタートする鶴岡市の総合支援事業にも参加できるよう、準備していくとともに、地域の人たちが安心して住み続けられるよう、これからも地域づくり・健康づくり活動に、参加・協同・支え合いの和（輪）を大切にしながら取り組んでいきたいと思えます。

### 成果と教訓

#### 成果

地域まるごと健康づくり活動は、2016年度も引き続き地域にしっかり根ざした活動を展開することができました。

介護予防教室は、今年も週1回開催を続けてきました。この4年6か月間で、190回、1回平均10人、地域にしっかり定着しました。地元の地区自治振興会との共催行事、健康講話は今年も大盛況、全家庭に案内チラシを配布、当日も50名程の参加者で研究室はびっしり、大きな成果でした。また、庄内医療生協では、「ちよさんの家の誕生がきっかけとなり、この3、4年の間に各支部ごとに様々なたまり場が開設しました。現在12支部12か所でたまり場活動が取り組まれています。

#### 教訓

ちよさんの家に集うようになって5年目に入っていますが、みんな明るく心が通い合うようになりました。

たまり場活動は、地域丸ごと健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりにとっても役立っています。また、たまり場活動の企画・運営は庄内医療生協の支援を受けながら、地元の医療生協と生協の組合員15人ほどが世話人会を組織して進めています。その結果、組合員自身に自主性、協力・協同の和（輪）と力が育ってきたように思えます。

# 松島医療生活協同組合

## 活動名 | 人口減少が進む田舎で高齢者の居場所づくり(食事会等)

### 活動のきっかけ

震災前、地域の人々がボランティアで月1回程度の食事交流会を行っていました。2017年4月から町島町でも地域包括ケア・総合事業が行われることを意識し、2015年1月からはこの食事交流会「なでしこ会」の復活を企画・実施しています。これらの活動が、2017年4月から通所サービスB(通所型)として定着するよう応援していきたいと考え、活動を始めました。

### 活動内容概要

1. 月1回土曜日、地域の集会場で食事会を行っています。事前にスタッフ8名が集まり、企画内容を検討し準備を行っています。
2. 食事交流会は、送迎がないと集まらない高齢者をボランティアが送迎し、食事を作り、レクリエーション・進行と分担して運営しています。



### 協同した団体

- ◎なでしこ会

### 地域の概要

松島町は人口減少地域、高齢化率34%で高齢者の多い地域です。とくに松島駅から約10km離れた竹谷地区はさらに高齢化が進み、車がないと外出も制限される地域です。



### 他団体と協同することで発見したこと

高齢者(後期高齢者等)・食事会活動から、ボランティアをするだけでなく、そのスタッフ(主に前期高齢者)自身の楽しみとして、新たな活動(クラフト活動)が始まりました。活動を通じて新たな仲間づくりもできることがわかりました。

### 将来イメージ

松島町は総合事業サービスB(通所型)を実施していませんが、サービスB相当の活動を目指したいと考えています。また、今回、松島町の総合事業サービスA(訪問型)のスタッフとして雇用しました。地域でサービスを必要な利用者に歩いて・自転車で行くスタッフがサービスを提供します。なお、町への請求業務、ケアマネジャー、地域包括支援センターとのコーディネートは職員が行っていく予定です。

### 成果と教訓

#### 成果

食事会と準備会をあわせて21回、延べ300名以上が集まりました。スタッフ自身が、ボランティア活動をするだけでなく、自分たちの要望を実現する活動を継続して行っています。

#### 教訓

自主的に地域の人々・老人会まで巻き込んで活動していただいていたのですが、活動記録日誌などを作成していませんでした。医療生協から活動報告フォーム(必要最低限の項目)を提案し、活動記録を書面で残すようにアドバイスしていきたいと思います。代表者とのコミュニケーションだけでなく、例えば、四半期毎にスタッフとの懇談を持っていくことを考えております。

# 特定非営利活動法人 ぎふ市民協

活動名 | 岐阜県でも、高齢や障がいの方を地域で支えられる「後見の社会化」をめざして

## 活動のきっかけ

法人後見や市民後見人について、ぎふ市民協では平成24年から障がい者支援に取り組む団体からの要望を受けて、コープぎふでは平成25年から「くらしたすけあいの会」が県下各地の組合員対象に、各々学習会等を積み重ねてきました。それぞれの活動から、個別に、リーガルサポート、ぱあとなあ、岐阜市社会福祉協議会のみなさんとの関係を形成していきました。改めて、関係団体の協力をまとめて発揮しつつ、地域の実情や経過を踏まえて、講演会や学習会を岐阜市から周辺地域（他市町村）に展開していくことを目指したいと考えました。

## 活動内容概要

1. 入門講座を岐阜市、高山市、大垣市、関市で開催し、101人にご参加いただきました。
2. 講演会を可児市と岐阜市で開催し、160人にご参加いただきました。
3. 可児市で4回にわたり開催したミニ連続講座の参加者は延べ75人のほりました。
4. 市民後見人養成研修は10日間の座学・演習、別に福祉医療施設見学学習3日間、裁判所見学1日というスケジュールですが、受講生は48名（女性：33名・平均62歳、男性：15名・平均66歳）になりました。



## 協同した団体

- 生活協同組合コープぎふ  
くらしたすけあいの会

## 地域の概要

岐阜県、岐阜市においては、市民後見人の育成や活用についての取組みは積極的とは言えず、平成27年1月～12月も岐阜県で第三者として、市民後見人が選任された事件はありません。社会・家族の変化の中で、単に専門職の不足への対応としてだけではなく、老いても、認知症や障がいがあっても、個人の尊厳やその人らしさを地域でささえる権利擁護や社会的包摂を大切にす環境を創っていく活動として、成年後見制度の学習と市民後見人養成講座に取り組んでいく必要があります。

## 他団体と協同することで発見したこと

- 成年後見制度についてのNPO法人ぎふ市民協の取組みとコープぎふの取組みを共有化することが具体的にできました。
- 県下に成年後見制度に関わる協働の活動の契機となりました。
- 準備段階での相談からお互いの活動や課題をより理解することができました。
- 参加者の広がりが得られました。

## 将来イメージ

岐阜県では、初めて開催された「市民後見人養成研修」でした。NPO法人ぎふ市民協としては、「法人後見」として受任をして、一定の社会福祉士などの専門職もかかえながら、市民後見人が後見を必要とする方々に対応できるよう支えていく形をめざしたいと考えています。生協を通じて、成年後見制度のニーズが顕在化されますし、それをささえる人材資源も生み出せる可能性があるのではないのでしょうか。

## 成果と教訓

### 成果

NPOと生協、社会福祉協議会、弁護士・司法書士・社会福祉士とのつながりや行政の協力を得たという実績などが生まれるなど、新しい関係や連携への可能性が広がりました。また、岐阜県では市民後見人がまだ選任されていませんが、市民後見人の活動に参加したいと意思表示をした市民が受講生48名中15名、さらに勉強をしながら成年後見活動に参加したいと思うと応えた方が32名も生まれました。

コープぎふ「くらしたすけあいの会」では2年間「成年後見制度学習会」を続けてきましたが、その質的内容も量的規模も拡大することができました。また、市民後見人養成研修には組合員の参加も見られました。

### 教訓

基礎学習会を続けてきたことから、より具体的な内容を求める声が増加してきました。

行政発行の「広報ぎふ」への掲載や自治会・町内会の回覧板へのチラシの挟み込み、週刊コープぎふへの掲載と組合員からの口コミが効果的な広報であることがわかりました。

# 特定非営利活動法人 福祉活動と福祉教育の推進協会 あすなる

活動名 | 大阪の中心で、高齢者・障がい者福祉を叫ぶ

## 活動のきっかけ

一般の方々に高齢者や障がい者の社会参加について理解を深めていただき、街全体で配慮ができるような、QOLが高い生活を送れるまちづくりを目的として活動を開始しました。

## 活動内容概要

1. 大阪府下の高齢者・障がい者施設を対象に街中での不便度調査を実施しました。
2. 5施設当事者および職員に、聞き取り調査を行いました。
3. 調査結果を街中に還元するため、商店街等（大阪市内500件）を中心に、『高齢者・障がい者への思いやり』パンフレットを郵送、配布しました。また、『高齢者・障がい者が参加できるまちづくり提案』パンフレットを作成しました。これらの制作物は高齢者施設・障がい者施設・商店街にも郵送しました。
4. 『大阪の中心で、高齢者・障がい者福祉を叫ぶ!』イベントを実施しました。高齢者・障がい者施設と街中での取組みを発表していただき、交流の場となりました。



## 協同した団体

- 福島医療生活協同組合  
認知症デイサービスセンターたんぼ
- 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ会 福島育成園
- NPO法人 あそびりクラブ
- 社会福祉法人 日本ライトハウス
- 地域生活支援センター こころの相談35室リーフ
- 社会福祉法人 淳風会
- 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ会  
居宅支援事業所
- まちの電気屋さん きょうりつ
- 長谷川美容室
- ダイアログ・イン・ザ・ダーク

## 地域の概要

高齢者の活動は、認知症・ADLの低下などにより、屋内や施設内での活動が中心となっており、周囲の理解が十分ではない現状です。また、障がい者の活動に対する一般社会の理解も、ノーマライゼーションが進んできた現在においてもまだまだ低く、配慮が必要です。

## 他団体と協同することで発見したこと

生協の協同について、福祉施設は人材不足にもかかわらず協力的で、街中での不便を切実に感じている実情がよくわかりました。街中の活動では、特に商店等では高齢者・障がい者への配慮について関心の違いが大きと感じました。大規模店舗では組織の方針があり、協同してもらえない場合もありました。福祉施設のニーズに対して、特定の商店等の取組みがクローズアップされる印象がありましたが、高齢者・障がい者が街中で困っていることと、街中でどのような取組みがなされているかを皆さんに知っていただくという意味ではとても効果的だったと思います。

## 将来イメージ

将来的には、高齢者・障がい者のニーズを受け止めて、街中で取り組めるプロジェクトを展開していきたいと考えています（例えば、高齢者・障がい者の買い物ツアーを実施し、それに向けて商店や街の方々が配慮を考え実践していくなど）。

## 成果と教訓

### 成果

不便度調査『高齢者・障がい者への思いやり（当事者発信）』アンケートは、大阪府下高齢者・障がい者施設1000件のうち102件が有効回答（有効回収率10.2%）で、21名に聞き取り調査を行いました。

『高齢者・障がい者が参加できるまちづくり提案』アンケートは、大阪市内商店街等500件のうち25件が有効回答（有効回収率5%）で、10名に聞き取り調査を行いました。交流イベントには、31名に参加いただきました。

### 教訓

#### 1. 高齢者・障がい者への配慮

- ① 通行の妨げになる自転車や荷物の放置・若者の座り込み・段差などが多く、街中での配慮がまだまだかけている現状がありました。
- ② 高齢者・障がい者当事者は、介助者ではなく当事者本人に説明や商品などの授受をしてほしいと感じておられました。
- ③ 高齢者・障がい者の障がいの状況によって配慮の内容も異なり、認知症や障がい種別による違いを含めた理解が一般の方々にも必要であることがわかりました。

#### 2. 街中での取組み

- ① 地域の方を巻き込むことにより高齢者・障がい者への配慮が普及する可能性を実感しました。
- ② 高齢者・障がい者の身だしなみや美容を整えることにより、当事者自身が街中へ参加する意欲が高まることを学びました。
- ③ 一般の方にはない高齢者・障がい者の能力（例えば、視覚障がい者（全盲）が真っ暗な場所でも活動することができる）に注目することで、一般の方の理解が深まることもわかりました。

# 特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフアゲイン

活動名 | 安定した食料の質と在庫の確保および食料支援を通じた子育て支援

## 活動のきっかけ

本団体は、食品関連の事業所や農家などから寄贈を受けた食品を生活困窮者等に無償で配達することにより、彼らの日常生活を支え、食品廃棄物の発生を抑制しています。しかしながら、定期的な食品の確保という点においては十分ではありません。当団体が行う食品支援活動を普及する広報活動を十分にを行い、しっかりとした食糧支援体制を構築するために、活動を始めました。

## 活動内容概要

### 1. 子ども食堂（もがるかホーム）への食材提供

グリーンコープから食材を受け、もがるかホームに提供したり、福岡県内の農家や食品メーカーに向けて安心安全な食材提供を呼びかけたりしました。

### 2. エコライフステージ2016

もったいないカレーの販売や、缶バッチ作成などを行いました。来場者にフードバンク活動を周知し、食べ物を無駄にしない活動を広げることに取り組みました。

### 3. 食品提供ロス学生プロジェクトTeam

ステージ企画では、ルー大柴氏の「MOTTAINAI」という楽曲と、北九州市のゆるキャラと学生が躍るダンスで、資源の無駄遣いを削減することの重要性を分かりやすくアピールしました。また、テント企画では、フードバンク北九州ライフアゲインおよびフードドライブの活動紹介パンフレットを配布しました。

### 4. 北九州市内一斉フードドライブキャンペーン

フードバンクの事務所やグリーンコープふくおかの店舗、市の共有施設等に寄贈BOXを設置し、寄贈者にはお礼のお手紙を送付しました。

### 5. 子どもの未来を応援するシンポジウム

グリーンコープとの協同で、県民に子どもを取り巻く現状と未来を周知すること、子どもの未来を応援する取組みのきっかけとなること、協力サポーターを増やすことを目的に開催しました。

### 6. ヘルシー&エコクッキング教室

食べ物を無駄なく使い切る方法、食品ロスを減らすことの大切さを参加者に伝えました。

## 協同した団体

- グリーンコープ生活協同組合ふくおか
- 食品ロス削減  
学生プロジェクトTeam

## 地域の概要

近年、我が国では生活困窮者が増大しており、17歳以下の子どもがいるひとり親世帯等の貧困率は50%を超えるといわれています。また、福祉施設の中には、社会から十分な支援が得られずに厳しい運営を強いられているところも多くあります。その一方で、賞味期限内で安全に食べられるにもかかわらず、破損等のために販売できず廃棄される食品ロスは、年間500万トン～900万トンともいわれています。



## 他団体と協同することで発見したこと

グリーンコープは組織力がつよく、連絡体制もきちんとしていること、会員が多く協力が得やすいこと、団体自体のポリシーをスタッフが理解していて発言が安定していると感じました。また、大きな組織では環境の変化による方針転換が迅速であると感じました。

食品ロス削減学生プロジェクトTeamとの活動で、社会貢献活動に興味を持って積極的に活動している学生が想像以上に多いことに気が付きました。

## 将来イメージ

孤立した社会の中で厳しい環境に置かれている子ども達が、それぞれに合った教育を受けられ、あたたかい食卓を囲めるふるさととして子どもの里やもう一つの家族を地域に創造したいと考えています。そして、食べ物を安定的に提供できる基盤を作り、子ども達一人ひとりに手を差し伸べられるような活動を推進し、そのモデルが各地域に役立てられ広がっていくことに貢献していきたいです。

## 成果と教訓

### 成果

子ども食堂への食材提供先約10箇所を新規開拓しました。また、イベント参加者数が約50名、ボランティア参加者が約20名増加しました。

### 教訓

協同事業の計画をたてる際には、担当者同士の合意だけではなく、団体間でコンセンサスを得ながら進めることが重要だと感じました。協同相手が大きいほど、組織内の意思統一が難しくなるので、「組織の合意がとれた意見なのかまで確認すべきだと学びました。

また、ボランティア中心の活動は組織内の情報共有や連携が非常に難しく、スカイプ等も活用し、定期的な会合を行う必要があると感じました。

# 東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア

## 活動名 | 宮城県南三陸町、及び宮城県漁協志津川支所への支援活動

### 活動のきっかけ

南三陸町では復旧にむけた様々な取組みが動きはじめ、沿岸部の大規模なかさ上げ工事も進んでいます。しかし、かつてのあたりまえの暮らしを取り戻し、地域全体がほんとうの意味で復興するまでにはまだまだ長い時間がかかります。被災地支援の取組みをあえて中山間地を中心とした京都の様々な団体、人々と協同して取り組んでいるのは、過疎化や獣害やその他様々な障害にもひるむことなく、集落の存続と再生をめざす人々の営みが、被災地の再生に向けた営みと深いところでつながっていると考えるからです。

### 活動内容概要

1. 復興の担い手となっていく子どもたちを応援するため、南三陸町の中高生34人を京都に招き『第5回海の虹プロジェクト』を開催しました。参加した中高生たちは、綾部市、京都市、南山城村を舞台に、受け入れ地域の方々、京都生協の組合員・職員ボランティア、その他様々なボランティア組織などのべ197名のスタッフとともに、様々な企画、交流を楽しみ、有意義な時間を過ごしました。
2. 11月には宮城県南三陸町志津川のカキ処理場と登米市南方町の仮設住宅で、京都生協職員ボランティアなどによる第5回お餅つき大会と炊き出しをしました。当日は、鳥取県畜産農協・コープ共済連・みやぎ生協のボランティア、夏に「海の虹プロジェクト」へ参加した中学生もいっしょに活動しました。つきあがったお餅をみやぎ生協のボランティアによって手際よく地元の「お雑煮」にいただき、住民の皆さんにお配りしました。

### 協同した団体

- 古屋でがんばろう会
- 志賀郷地域振興協議会
- 鳥取県畜産農業協同組合
- みやぎ生協ボランティアセンター
- 宮城県漁協志津川支所
- 登米市仮設住宅自治会



### 他団体と協同することで発見したこと

協同した他団体がそれぞれつながりを持っている団体・個人にさらに参加を呼び掛けることで、広範な団体・個人の参画につながりました。2011年からの継続で経験も蓄積され、各団体・個人がそれぞれの役割を自発的に果たせるようになってきています。その結果、企画内容がより充実し、生き生きと活動するボランティアや地元の人たちの姿そのものが、参加した中学生たちに力を与えたように思います。

### 将来イメージ

取組みを長く継続していくために、様々なボランティア組織との連携を更に発展させていきたいと思っています。また、子どもたちとのつながりをこれからも強めていきたいと考えています。彼らが大人になっても強いつながりを保てるような、特別な取組みが必要と感じています。これまでは中高生を対象とした取組みをすすめてきましたが、親御さんたちも対象とした取組みを模索していきたいと考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

- ①参加した中高生34人。のべ197名のスタッフが参加しました。
- ②『海の虹プロジェクト』は、中学生たちに、様々な体験を通じて、自立、挑戦、助け合い、人々のつながりを大切にしていくこと等を考えるきっかけを作ることができました。
- ③今年の『海の虹プロジェクト』では、志賀郷と古屋に加え、京都府南部の南山城村も活動の場としました。地域の方々にとっても大きな励みとなっています。

#### 教訓

- ①参加するボランティアは引き続き増加傾向にあり、京都での民泊先を含め京都生協以外のボランティア組織・個人とのつながりもひろがりつつあります。昨年の『海の虹プロジェクト』からは京都での受け入れ地域も府南部にひろがってきました。また、組合員からの組織的、個人的なカンパなど支援活動を支える資金的な基盤もひろがりを見せています。今後はこれらのつながりをより確かなものとしていくための組織づくりに取り組みます。
- ②『海の虹プロジェクト』も今年は6回目となります。「リピーター」として参加するOB、OGも増えています。今後は、京都での民泊先やボランティアメンバーと子どもたちとの継続的な関係づくりにも意識的に取り組んでいきます。
- ③2017年6月にはすべての仮設住宅が原則閉鎖となり、「復興住宅」等でのそれぞれの「普通の暮らし」が始まっていきます。これまでの活動を通じて出来てきたつながり、信頼関係をベースにあらたな関係づくり（組織づくり）に取り組んでいきたいと考えています。

# 生活協同組合コープあおもり

活動名 | 福島の子ども保養プロジェクト in コープあおもり コープあおもりねぶたツアー

## 活動のきっかけ

被災地を支援したいという組合員の願いを形にする取組みとして、日本生協連の方針を受けとめ、福島の子どもたちが思いっきり外遊びできる場として開始しました。同時に長年参加し続けてきたねぶたの意味や価値を再確認できる機会としています。

## 活動内容概要

大型バスで親子14組32名をお迎えし、以下の活動に参加していただきました。

1. 大型ねぶたを展示している場所で、グループに分かれて見学
2. 県産品・郷土食を意識した手作りの夕食での交流会
3. 跳人（はねと）衣装を着けて、青森ねぶた祭に参加している生協ねぶたで跳人体験
4. 浅虫海岸での外遊び（海水浴）

福島の子どもに青森ねぶた祭りに跳人として参加して思い切り楽しんでいただきました。2日目は海水浴や磯遊びを通して、外で思いっきり遊んでもらうとともに、子ども達が夏を満喫し楽しむ様子を見ることで、保護者の方々にも元気になっていただきました。

## 協同した団体

- 青森中央学院大学
- 青森中央短期大学
- 福島県生活協同組合連合会
- 青森保健生活協同組合



## 他団体と協同することで発見したこと

- ① 今回のボランティアの半数がアジア圏に国籍を持つ学生でしたが、子どもたちとの会話も積極的に行っていました。
- ② ねぶた衣装の着付け教室に留学生全員が積極的に参加し、そうめんを食べながらの昼食交流の場で食文化など組合員との交流がはずみでした。着付けを覚えることをとても喜んでおり、体験の機会が大事だと感じました。
- ③ 浅虫海岸や宿泊地など現地の下見にも学生も同行し、移動中に色々な話を聞く中で、学生の皆さんが市内の外国人旅行者の案内や様々な企画のボランティアなど積極的に参加していることを知り、このような若者とのコラボがもっとできないものかと感じました。

## 成果と教訓

### 成果

- ① 事前に「アレルギーチェック」を提出していただくことで、食事の手配段階で対応ができ、参加者から感謝されました。
- ② 青森市以外の地域リーダーさん2名に着付けスタッフとして参加いただき、関わりが広がりました。
- ③ 15家族の募集に対して、32家族の申込みがありました。
- ④ 共催する大学へのボランティアの募集では、昨年度3名の応募に対して、今年度は募集枠を2名超える8名の応募がありました。
- ⑤ ボランティアとのミーティングを大学構内で2回開催して、企画のアイデア出し、当日のシミュレーションや役割分担をし、学生だけでゲームの運営を行いました。
- ⑥ 生協の内定者9名が、事前研修として夕食懇親会の会場設営・盛り付けと交流会やねぶたに参加し、参加者の想いに触れ、活動の意義を理解することができました。
- ⑦ 全体を4つのグループに分け、それぞれ理事1名と学生ボランティア2名が担当し2日間を通してサポートしたことで、参加者と親密な関係を作ることができました。
- ⑧ 参加者から、青森の夏を体験したことに対する感動と合わせて、スタッフに対する感謝を多数いただきました。

### 教訓

- ① 理事スタッフと学生ボランティアとのミーティングを事前に実施し、お互いに理解しあいながら計画を綿密に立てていくことが必要です。（今回は事務局中心に学生と打合せ）
- ② 留学生の生活習慣や言葉の理解力に留意しながら、スタッフマニュアルをよりわかりやすくする、全員との確認をしっかりとるなどの工夫が必要です。
- ③ ゆとりのある時間組みが大事。連続した日程でのねぶた運行スタッフとの兼任は、体力的に大変なので、兼務しないことが重要です。
- ④ 地元青森県の子どもたちとの交流の場づくりを計画しましたが、実費負担に近い参加費や現地集合では参加しにくかったためか、申し込みや問い合わせがありませんでした。

## 将来イメージ

地元大学との共催の経験を、青森市での取組みから、弘前市や八戸市での開催につなげるにより、春や秋の青森の自然を感じてもらえるような機会作りできればと思います。そのためには、コープあおもりだけでなく、県連を中心に各生協や協同組合間の提携の一つのテーマとして考えていければと思います。

# ろっこう医療生活協同組合

活動名 | 神戸の名産のイカナゴのくぎ煮を組合員の手で作り、東北の被災地に持参し、被災者に手渡す

## 活動のきっかけ

東日本大震災から5年が経過し、現地以外の地では風化が進み、話題にもなくなっている現状があります。私たちの神戸も21年前の阪神淡路大震災の経験から、震災直後の全国的支援と注目の時期が過ぎると、次第に世間から忘れられることとなり、暮らしの再建に困難を抱えているにもかかわらず、大変孤立感にさいなまれることが、復興どころか日々を生き抜く大きな困難となることを知っています。神戸という遠方から、同じ被災経験を持つものとして、現地を訪れ、声をきき、声をかけることが、ささやかでも励ましとなり、共感となればとの願いを込めて活動を開始しました。

## 活動内容概要

1. 2016年10月に「さんま祭り」を神戸市内で開催し、収益金と支援募金を集めました。
2. 2017年3月、いかなごのくぎ煮をつくりパック詰めし、3団体6人が空路（大阪伊丹空港～花巻空港）で被災地の岩手県大船渡市へ持参し、現地に残る仮設住宅に暮らす被災者の方々にお配りしました。それらの行動を通じて、被災者の方々の体験や気持ちをお聴きし、また、神戸の阪神淡路大震災の経験をお話しし、懇親を深めました。また、集めた募金345,326円を大船渡市に寄贈しました。



## 協同した団体

- 特定非営利活動法人 花たば
- こうべ保健サービス



## 他団体と協同することで発見したこと

高齢者共同住宅を運営するNPO花たばのメンバーは、高齢者同士のコミュニケーションの活性化が得意で、仮設住宅の集会所に集まったメンバーとゲームやお手玉を使ってすぐに打ち解け合うことができました。

## 将来イメージ

2018年3月末を目途に仮設住宅は解消される方向なので、今後は復興公営住宅に移り住む方々を対象とした支援活動の取組みを、現地の市職員や支援員の皆さんとともに企画していきたいと考えています。

## 成果と教訓

### 成果

2か所の仮設住宅を訪問して9人の住民と交流し、仮設住宅の統廃合により新たなコミュニティづくりに貢献できました。大船渡市長をはじめ市職員の皆さん、仮設住宅および復興公営住宅の支援員の皆さんと直接意見交換ができ、今後の住宅訪問や神戸でのイベント「さんま祭り」の開催などを約束できました。

### 教訓

3団体6人で参加し行動できたので、それぞれの法人の視点が生かされ、仮設住宅を訪問した際に、住民の健康、住環境、近隣の薬局利用や服薬状況のヒアリングなど、多方面にわたって交流することができました。

# 福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会

活動名 | 2016福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川

## 活動のきっかけ

福島の子どもたちは、まだまだ他県のように気兼ねなく外で思い切り遊べる環境にはありません。また、親御さんも積極的に外遊びをさせられる状況にはありません。子どもの心身の健康に不安を感じる現地の保護者の気持ちに寄り添い、支援することを目的として活動を始めました。

## 協同した団体

◎東日本避難者連帯事業実行委員会

## 活動内容概要

入村式、野島でバーベキュー、ウェルカムパーティ、ランタン作り、思い出のアルバム作り、ラジオ体操、海苔づくりにチャレンジ、外遊び、ラーメン麺打ち、ナイトハイク、退村式、海洋科学技術館見学、お別れ会を行いました。



## 他団体と協同することで発見したこと

今年も大変多くの方々からご支援・ご協力を頂戴しましたが、実行委員会団体はもちろんのこと、メーカーや企業、個人など、「何か機会があれば私も協力したい」という方々が勢いおられ、その思いをかなえる場として大変重要な機能を果たしていることを改めて実感しました。

## 将来イメージ

福島県生協連からの要望がある限りは、かたちや規模はともかく、本プロジェクトを続ける努力をしていきたいと考えています。

## 成果と教訓

### 成果

昨年からフェイスブックで期間中の様子を配信しました。保護者からも、子どもたちや活動の内容がすぐに伝わることで、好評をいただき感謝の言葉を頂戴しています。また、学生や若者のボランティアと丁寧な役割分担と動機づけを行ったことで、しっかり子どもたちに関わることが出来、大きなやりがいと達成感を感じてもらいました。子どもたちも素晴らしい思い出として持ち帰ってもらえたと思います。

### 教訓

子どもたちと生活を共にする学生ボランティアスタッフの事前学習会をしっかりと行ったことで、ボランティアスタッフの意識も上がり、期間中の運営も例年に比べスムーズにすすみました。連続参加の学生からも、「昨年の改善点が修正されている」との評価がありました。改めて事前段階の準備が大切であると認識しました。

# 生活協同組合コープしが

## 活動名 | 生協と社協による住民の暮らしを支えるプロジェクト

### 活動のきっかけ

10年先の状況を見越して、これまで高島市で取り組まれてきた地域見守り活動をさらに発展させ、住民、ボランティア、NPO、企業等の民間組織・団体および行政などとの連携・協働による地域生活支援体制の構築を目指します。暮らしを支える協同づくりをミッションとする生協と地域のネットワークを有する社協がお互いの資源を持ち寄り、多様化する暮らしの課題に対応できる仕組みづくりを構築していくことを目的として、このプロジェクトに取り組みます。

### 活動内容概要

地域で活動する住民、生協組合員と、コープしが、高島市社協の役職員が地域の課題と具体的な取組みについて、5回にわたり協議するプロジェクト会議を開催しました。

プロジェクト会議の全行程に行政職員（地域包括支援課、市民協働課）の方も参加をいただき、毎回ワークショップ形式にて、それぞれの視点で地域の実態や課題について共有し、地域を支える取組みの実践に向けて、地域と生協の資源など、お互いの強みについて共有を進めました。5回のプロジェクト会議の集大成として、協同の取組みの事例の掘り起こし、実践課題を整理し、内外に発信することを目的としたフォーラムを開催しました。



### 協同した団体

●高島市社会福祉協議会

### 地域の概要

滋賀県高島市は人口減少、少子高齢化、単身世帯の増加が進行しており、過疎高齢化によるコミュニティ基盤の脆弱化が大きな課題であり、あらゆる世代の孤立問題の顕在化も進行しています。



### 他団体と協同することで発見したこと

グループ購入が減少し、個別配送が増加している生協の現状は、地域にも共通する課題であることが分かりました。地域の課題である単身化や孤立の問題の解決に向けて「共同性」を高める必要性を実感することができました。生協のたすけあいから、地域に開かれたたすけあいへと、生協と社協、行政の協働の必要性を強く感じる事ができました。

### 将来イメージ

各団体がお互いの「強み」について共有し進めている経過を踏まえ、各組織内で他の団体の「強み」の情報提供・共有を図り、将来に向け福祉の協働づくりを共に推進していきます。また、2017年度の高島市での地域拠点づくりを振り返ると共に、他の行政での「福祉の協働づくり」に活かしていきたいと考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

地域住民、社協、行政、生協の4者が顔の見える関係を築くことができ、地域課題を共有することができました。生協の既存の事業や組合員活動が地域貢献につながっていることを再認識することができ、また非組合員である地域住民はじめ社協、行政にそのことを認識していただく機会となりました。また、地域の課題を他団体や行政とつながることで、生協も地域の一員として支えることができることを生協内の（福祉以外の）他部署とも共有することができました。

フォーラムは他府県の行政や社協からの参加もあり、生協と社協の協働という先進的な取組みとして発信することができました。

#### 教訓

行政や地域では、生協を営利企業とみる傾向があり、農協などの他の協同組合に比べ、生活協同組合の理念などが、理解されていない傾向にあることが認識できました。

社会福祉協議会と同様に生活協同組合が非営利の団体であり地域福祉に貢献できる存在であることの地域への発信が弱いと気づかれました。





**命を守り、  
その人らしい生き方が  
できるようにする**





# 特定非営利活動法人 ソーシャルビジネス推進センター

## 活動名 | 過疎市町村における介護予防事業を協働で立ち上げる

### 活動のきっかけ

地域間格差を解消し、どこに住んでいても命と生活が守られる環境を創り出すことは、協同する三団体に共通するミッションです。この課題に取り組むため、三団体の共同研究として活動が立ち上げられました。

### 活動内容概要

北海道内の市町村とNPOが介護予防事業委託契約を結び、高齢者を対象とした運動教室を開催しています。受講料の一部を自治体が負担し、残りを利用者が負担します。また、定期的に体力測定を行い、利用者の健康状態を把握しプログラムの開発や改善を行っています。NPO法人・コープさっぽろ・北翔大学は協定を結び、それぞれの強みを生かしながらこのプログラムを進めています。

1. コープさっぽろは健康運動指導士を新規雇用し、1年間NPOに研究派遣させた後、業務派遣します。
2. 北翔大学は運動プログラムを開発、改善し、体力測定を全道各地で実施します。学部教育では健康運動指導士の育成に力を入れています。
3. NPO法人は過疎と高齢化の中で高齢者の健康維持に苦慮している中小市町村にプログラムを紹介し助言を行います。健康運動指導士を指導・育成し、地域派遣・常駐をさせてプログラムの実施を実現します。

また、よりリスクが低く、独習が可能な運動プログラム（通称「ゆる元」）を開発しました。「ゆる元」は指導者認定を受けた元気な高齢者が他の高齢者を指導することも可能です。住民の力で地域の健康意識を高め、健康寿命を延ばすことを目標としています。

また、北海道内の全市町村に「認知症になりにくいまちづくり宣言」の参加を呼びかけ、意思を示した市と町で住民の認知力テストを行い、軽度認知症の早期発見、また運動指導により認知症の発症を遅らせる取組みにつなげています。

### 協同した団体

- 生活協同組合コープさっぽろ
- 北翔大学

### 地域の概要

北海道では札幌へのヒト・モノ・カネ・情報の一極集中が進み、周辺地域の自治体では介護予防の施策が十分に実施できません。



### 他団体と協同することで発見したこと

各団体の決定プロセスの違いから、提案・検討・決定のペースがなかなか揃わない場合の対処法を取得できました。他団体との協調と単独での決定及び実施についての相互理解さえ形成できれば、足並みの乱れや、進捗の停滞を回避することができます。

### 将来イメージ

「まる元」は、全道的に知られるようになりましたが、採用したいが難しいという自治体に対し、産業構造や社会的、地理的な特性を考慮した提供のしかたを研究したいと考えています。「ゆる元」と組み合わせ、認知症予防とリンクさせることで、過疎地域の高齢者の健康寿命の延伸と、自治体の負担軽減に貢献できます。コープさっぽろのネットワークと、北翔大学の研究と教育、NPOのリサーチとマネジメント力をさらに高度に組み合わせ、必要とされるエリア全体にサービス展開したいと考えています。さらに、熊本と東北の被災地に対し「まる元」の成功モデルをそれぞれの地域に合う形で提案していきたいと思えます。

### 成果と教訓

#### 成果

昨年度11市町村だった「まる元」の実施自治体を、年度内に16市町村に増加させることができました。また、来年度には新しく3市町村で導入が決定しています。研究会やフォーラムで「まる元」を紹介する機会を得て、当プログラムの認知度をより高めるとともに、「まる元」に関心をもつ他の団体の問い合わせに応じ、運動教室の視察を受け入れました。

今年度は「ゆる元」を本格的に始動させました。具体的な指導案を検討しビブス等の必要物品を揃え、指導者のための講習、認定を行うことができました。

認知症になりにくいまちづくり宣言推進本部では、宣言に賛同した自治体にニュースレターを発行し情報提供を行いました。「まる元」を採用している市町村を中心として、高齢住民の体力測定と一緒に認知機能テストを実施することができました。

#### 教訓

これまで、NPOの幹部による財政保障を念頭に置いて経営を行っていましたが、外部から民間企業のトップの経験を持つ理事を迎えたことにより、金融機関との「当座貸し越し」などの契約を結び、財務管理が安定化できました。財務については、対外的な信用を重視し、すべてを自己完結的に進めないことが重要であることを学びました。

# 福井県民生活協同組合 ハーツきっず羽水

活動名 | 命をテーマに考え・学び、今日がある幸せを感じてもらう

## 活動のきっかけ

「命は大切」という事は、誰でも頭では分かっていますが、日々の生活の中で、どうしても「当たり前のこと」のように思えてきてしまいます。「生まれてくる奇跡」について、楽しみながら奥の深い話が聞けるよう工夫して、開催していきたいと考えています。

## 活動内容概要

1. 自分たちが産まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、人との繋がりを考える、ドキュメンタリー映画「うまれる」を上映しました。
2. 保健師・助産師による「乳がん、子宮頸がんの話」や、看護師による「災害時の乳幼児支援講座」を行いました。
3. 乳幼児の安全を守るJAFによる「チャイルドシート講座」を行いました。
4. 「子どもの安全講座」「応急手当の話」「子どもの病気について」の講座を行いました。



## 協同した団体

- 子育て支援団体 ぼぼぼの会
- 日赤福井県支部 看護師
- 日本自動車連盟 (JAF)
- 保健師・助産師
- 福井県安全環境部 県民安全課

## 地域の概要

核家族化の進行によって、命に関わる大事な場面にふれる機会が少なくなっています。生や死の意味について考える機会や人の命の有限さやかけがえのなさを理解する機会が失われ、命の重みに対する感受性が弱まっています。



## 他団体と協同することで発見したこと

子育て世代の興味や関心を軸にテーマ活動を行う子育て団体「ぼぼぼの会」の知識と、メディア・広報活動など様々な協力を得る事が出来ました。また、それぞれの団体の専門性を活かした内容の講座を行った事で、地域の専門家を紹介する場にもなり、何かお困り事があった時に頼ってもらえる施設としてのアピールにもなりました。

## 将来イメージ

少子高齢化は今後も止める術もなく進行していきます。そして、夫婦が共同で家計を支える夫婦協働体制がより強く求められるようになってきています。しかし、子育ての負担は女性に偏るといのは、なかなか変わっていきません。子育て支援の必要性を求める声が高いのは、子育てにともなう不安が増加している事であると思います。このような時に周囲からの支えがあるかないかが重要であるので、いかに行政や地域の方との協働による子育ての社会化が出来るかが大切だと思います。今後も地域の資源を活用し、協働体制をとりながら活動を進めていきたいと思っています。

## 成果と教訓

### 成果

#### ①ハーツきっずまつり ありがとうフェスタの開催

ハーツきっずだけでなく、子育て支援団体「ぼぼぼの会」や福井県危機管理室、LPAの会、といった協同団体からもさまざまな企画を出店いただきました。参加者からは、命の尊さ、生まれることでの人のつながり、温かさを強く感じた。映画の出産シーンが感動的だった。とてもすばらしい映画に出会えて温かい気持ちになった。防災や非常食の事が知れて、CO・OP商品もいただけたので良かった。といった声をいただきました。

#### ②保健師や助産師による講座の開催

保健師による「子どもの褒め方の話」「乳がん、子宮頸がんの話」、助産師による「助産師さんに聞いてみよう」「プレママ講座」、看護師による「災害時の乳幼児支援講座」「応急手当の話」「子どもの病気について」、JAFによる「チャイルドシート講座」、福井県安全環境部 県民安全課消費・生活グループによる「乳幼児の事故・未然防止についての講座」を実施しました。

### 教訓

「ぼぼぼの会」との事前打ち合わせを行う上で、メンバーの子育て中のお母さん達との時間調整が難しかったです。また、準備の段階でお互いに思いがすれ違う場面もありました。連絡を密に行い、ハーツきっずとしての思いをしっかりと伝えていく事の大事さも感じました。他団体と協同するとは、相互理解と信頼の中で共通の課題を解決したり目的を実現させるためにお互いを尊重しながら一緒に考え、それぞれの資源や特性を持ち寄り、協力して取り組むという事であると学ぶことができました。

# 生活協同組合おおさかパルコープ 鶴見福祉センター運営委員会

## 活動名 | だれもが集えるたまり場づくり

### 活動のきっかけ

孤立した高齢者をつくらないために、福祉センターを活用し、1階をサロン活動の拠点として、2階の集会室や調理施設を地域住民に広く開放し、住民どうしの交流から、安全安心のまちづくりをめざしたいと考えました。

### 活動内容概要

鶴見福祉センター（地域のたまり場）を活用して、地域の人達が気軽に楽しめる企画を開催。センターの存在を知って頂く機会や住民どうしの繋がり場の設定を考えました。

1. 大型バスでみかん狩りと黒潮市場でバーベキューの昼食交流。
2. 高齢者やその家族などを主な対象とした介護保険の学習会の開催。
3. 家族で楽しむ参加型の、わくわくコンサートの開催。
4. 高齢者も参加できる、身体を動かしたスポーツ・カーリンコンの体験と大会の開催。

### 協同した団体

- 榎本地域活動協議会 13町会
- ヘルスコープおおさか

### 地域の概要

高齢者が多い地域で、独居老人も増えている現実を知り、孤立した高齢者をつくらないための活動が求められています。



### 他団体と協同することで発見したこと

町会やヘルスコープと協同することで、生協の枠を取り払い地域住民としての活動の組み立てや住民目線で動くことが出来、地域が少しずつ見えてきました。「サロンえのもと」も、行事ごとに臨時的開催なども試み、スタッフと住民との結びつきが出来つつあります。まだまだ、地域住民のニーズは掴み切れていないので、これからも永いお付き合いを頂きご指導頂きたいと願っています。

### 将来イメージ

2階で昼食会・学習会などの開催ができ、少しずつセンターが地域に広がってきています。5周年を機会に地域に合った形で昼食会は是非定期化を考えていきたいと思います。また、高齢化が進む中で高齢者の孤立を防ぎ、なによりも信頼され、必要とされ、来て良かった・ほっこりできた、が実現できる「笑顔が広がるたまり場」へ発展させていきます。

### 成果と教訓

#### 成果

- ①2015年9月には、毎水曜日にサロンを開催でき、1回は町会女性部に運営して頂き、互いの理解が深まりました。
- ②大型バスでのレクリエーションには、子ども連れのご家族など、異なる世代88名が参加しました。生協の活動の枠を取り払った「地域と共に」のスタイルが実感出来る企画となりました。
- ③高齢者やご家族に目線を置いて「知ってるようで知らない介護保険・これからの社会保障」をテーマとし学習する場が持てました。
- ④「家族みんなでわくわくコンサート」は、参加型で小さな子どもから、デイの利用者さんまで幅広い層の参加で世代間交流の場にもなりました。
- ⑤カーリンコン体験と大会、初心者向けの体験学習を組み参加の輪を広げました。

#### 教訓

- ①両団体ともに、地域とさまざまな行事に関わりを持ち、サロンや昼食会などを開催されているので、その経験を生かしたアドバイスも頂き、実践に役立っています。
- ②今回の取組みでは団体ごとの得意分野を生かし、参加の輪を広めることが出来ました。
- ③全体の取組みを地域の思いや形で進めるために、サロン開催には、具体的な内容について細かく意見を頂き、地域住民の目線で話しあうことが出来ました。地域を知る機会になり、人間関係を培う場となりました。

# きらくクラブ

## 活動名 | みんなで作ろう! 私たちの居場所「きらくクラブ」

### 活動のきっかけ

平成25年9月に相模原市小山地区における地域活性化事業で駅前のマンションをお借りして、「きらくクラブ」という高齢者の憩いの場所を作りました。近くの生協と協力し今までにない生活に密着した「安心・豊かな生活」をテーマに、これまでにない厚みのある活動をしていきたいと思い、活動を開始しました。

### 活動内容概要

地域リビングとしての活動は、参加費200円でお茶や軽食を提供し、週3回運営しました。月1回～2回はイベントを行い、コープから講師も派遣していただきました。月に1回は「きらくマルシェ」を開催し、地域の野菜販売・クラフト販売・障害者施設・自立支援施設からクラフト・パンなどの販売・スタッフが作る1食300円のきらく食堂を運営しました。「きらく子ども食堂」も月1回開催しており、地域の児童福祉引退者の方による人形劇・仔馬を飼っている方が訪問・更生病院管理栄養士による子どもへの10分間栄養指導も入ります。「きらくカルチャー」と呼ぶ地域講師による文化的な活動は、さまざまな内容で実施しました。

そのほか、住民主体のミニデイサービスを実施しました。また、コープに返却されたドライフードは、ルールに従い食堂に使用したり、包括職員を通じて貧困家庭に配布したりしました。社協福祉まつりにて昼食の協力も行いました。「きらく会議」と呼ぶ月一回活動についての話し合いの場には、ユーコープや地域包括支援センターの職員も数回出席頂きました。



### 協同した団体

- ユーコープかながわ  
たすけあいネットワークセンター

### 地域の概要

我が国の75歳以上の人口の割合は10人に1人ですが、2030年には5人に1人となります。相模原市も平成28年度から総合事業が行われ、要支援1・2の方は住民主体の活動、簡易的なサービスに移行していく方向です。相模原駅周辺はマンションが多く、地方または都心から住み慣れた自宅を売却し相模原に住む方が多いようです。そのためか閉じこもりがちなる方も多く、廃用症候群になる方も少なくありません。

### 他団体と協同することで発見したこと

地域ささえあい助成金で活動するようになり、ユーコープかながわの力を借りて子どもの孤食について考える機会ができました。食糧(返却されたドライフード)の提供に関しては、地域包括支援センターの職員を通じて差し上げる事もできました。きらくの活動にも活用することが出来、きらく+コープの社会活動に地域の様々な機関が興味を持ち活動が広がっています。地域の中で地道に活動していた時代とはまた違い、他機関との連携もスムーズになりました。

### 将来イメージ

高齢者だけでなく子ども、障がい者もきらくクラブの中でつるぎる共生社会を目指します。現在もマルシェでは自立支援を受けている方のパンや知的障がい者の方が作った小物なども販売しています。こころのバリアフリー化をすすめ誰もが「ちょっと寄ってみよう」や「話をきいて」と来てくださる場所にしていきたいと思えます。様々な機関の方のアドバイスをいただきながら地域包括システムの中の一環として地域のお役に立てればと考えます。

### 成果と教訓

#### 成果

相模原市の地域の活性化事業の補助金で行っていた時は参加費を取らずに憩いの場を運営していましたが、光熱費などもかかることから、新きらくクラブからは200円の参加費をいただくようになりました。きらくクラブを一緒に作っていくという意識が参加者からも生まれています。また支援者も増えてきており、近くの保育園の園長さんが歴史の講師になったり、マルシェの無い日には、自分で肉まんを作ろうと企画に繋がったりする事もあります。また、民生委員や地域包括支援センターからの参加者の相談や住民主体のミニデイサービスについても4月からすすめていく事になりました。介護予防に対しても対応していきます。

#### 教訓

一つの団体が思いつくことは、まとまりがあるものの単調になりやすく刺激もなくなります。立場が違う団体の方々と交わりコミュニケーションを持つことで、きらくクラブも広がりを持つことができます。また代表者だけが分かっているといけません。いただいた知識をスタッフに伝えて同じ方向を向き楽しむことも学びました。フードロスや子ども食堂、高齢者の憩いの場、学びの場という事を運営し会社のシステムの一環であると実感しています。

# 非営利公益市民活動団体 コミュニティ マーガレット

## 活動名 | ボール体操で楽しく健康づくりを広げようプロジェクト

### 活動のきっかけ

地域で介護予防運動とさまざまな文化活動に取り組めるコミュニティを作ること、健康づくり～介護予防を目指し活動していきたいと考え、活動を開始しました。

### 活動内容概要

体操教室やイベント活動を企画し、住民の健康増進とコミュニティの活性化を目的に活動を行いました。具体的には、当団体とCO・OP共済とのオリジナルエクササイズボールを作製し、理学療法士の指導により、オリジナルボールを使用したエクササイズを実施しました。また、ボランティア住民・協働団体・参加者と共に実践し健康づくりの普及・啓発活動を行いました。

活動場所は屋内外で実施。当団体や生協活動場所・市のイベント・幼稚園・老人ホーム・公民館・公園等で行い、幼児～高齢者まで健康づくりを通じて多世代交流を果たす役割を目指し地域包括ケアシステムの実践を図ることが出来ました。コミュニティマーガレットの花柄マークで地域でのたすけ愛の花を咲かせ『いつまでも住み慣れた地域で安心して生活ができる』やさしい地域づくりを目指しました。



### 協同した団体

- ネット五條
- 奈良県医療福祉生活協同組合 南和委員会

### 地域の概要

現在、五條市は奈良県下における運動習慣者割合が39市町村中36位と低迷しています。参加者自身が楽しく健康づくりに参加しているというローゼンソール効果の意識づくりがこれからの地域ヘルスケア・健康づくりに必要不可欠です。

### 他団体と協同することで発見したこと

- ① ネット五條・奈良県医療福祉生活協同組合様と協働は食や健康に対する興味のある方へ健康づくりの実践とロコモティブシンドローム等の予防啓発を推進することが出来ました。
- ② 当団体の主催する運動教室・文化講座・ノルディックウォーキング活動ボランティア会員とのコラボレーションで健康づくりの輪をさらに広げることが出来ました。
- ③ 活動では当団体の運動教室会員がボランティア側に回り協働団体との協働活動を行い医療生協やネット五條の活動もお互いに知ることが出来ました。

### 将来イメージ

当団体の体操教室や各種イベント・出張教室で子どもから高齢者対象に健康づくりを継続していきます。また、作製したボール体操を一つのツールとして利用を継続し、さらに普及活動の輪を広げていきます。継続した健康づくり活動に取り組み、今後も生協ネット五條・医療生協との健康づくり活動での協働をすすめていきます。コミュニティマーガレットの協働活動が地域の元気になりたすけ愛の輪を広げることを目指します。

### 成果と教訓

#### 成果

- ① 高齢者だけではなく、子どもからお年寄りまでの多世代が楽しく取り込むことの出来る体操と、健康づくりの支援の実現が出来ました。
- ② 理学療法士の指導で身体の動きや使い方を易しく指導することにより、運動方法や運動の重要性の理解を促すことが出来ました。
- ③ コミュニティ単位での体力向上を目指した健康づくりを行うことが出来ました。
- ④ オリジナルボールの作製により、団体としての継続的な楽しい活動と地域コミュニティの活性化の推進することが出来ました。
- ⑤ 生協活動と協働し健康づくりを地域全体に広げ元気にするきっかけ作りが出来ました。
- ⑥ 活動場所は当団体主催活動や地域での健康づくりイベントや、生協での地域協働活動イベント、へき地団体・幼稚園・老人ホーム等、多世代での交流を広く活動を行うことが出来ており協働団体との協働は地域包括ケアシステムに向けたボランティア団体の役割を果たすことが出来ました。

#### 教訓

- ① 運動する健康づくりを通して健康寿命の向上・ロコモ予防の大切さを伝え、その目的を達成するための実践を行うことが重要であると考えています。
- ② 住民と協働団体との活動での健康意識の広がりやコミュニティでの活動は将来的にたすけあいの活動に発展するために地道な楽しい活動と継続が重要です。
- ③ いかにか健康づくりへの理解と効果を住民に示すかが大切で、かつ意欲的に楽しく取り組むことが出来る憩いの場づくりが重要であると感じています。
- ④ さらに本活動をどのように広報していくか知恵を絞る、それらを的確に皆さんに伝え住民の皆さんの自主的な活動に繋げる事が必要であると実感しています。
- ⑤ 今回の助成活動による地域の活性化は大きく、継続する為に今後もボランティア団体活動を盛り上げ、地域の方の協力を得て精進せねばならないという課題が出来ました。

# 鹿児島県生活協同組合連合会

## 活動名 | 地域の力で住民本位の地域包括ケアを実現する活動を進めます

### 活動のきっかけ

鹿児島県生協連は、住民本位の地域包括ケアを実現するために「地域支えあい委員会」を設置し行政との懇談やアンケート調査にもとづく提言活動を行っています。地域の中の諸団体と実行委員会をつくり住民本位の地域包括ケアを作りだすために交流集会の企画や広報物の発行を行い、地域社会の関心を高め、地域資源をつくりだすためのネットワーク構築を進めたいと考えました。

### 活動内容概要

鹿児島県生協連加盟5生協（県連含む）、行政、県社協、社福、NPOなど10団体1個人で実行委員会を結成し、「みんながつくる地域包括ケア」をテーマにした学習交流会を開催しました。交流会は美作大学小坂田教授の記念講演、鹿児島県曾於市の行政・社協・事業者からの実践報告、及びパネルディスカッションを内容とし、11月18日鹿児島市内会場で約260名の参加を得、講演・報告とも好評をいただきました。

開催後、会の講演や報告内容を中心にした「報告集」を発行し、今後市町村が進める地域包括ケアの手引きとして活用を進めています。

### 協同した団体

- 鹿児島県社会福祉協議会
- 鹿児島県
- 社会福祉法人 鹿児島虹の福祉会

### 地域の概要

鹿児島県は離島が多く（2市16町）、貴重な生活支援の実践が離島地域で行われています。



### 他団体と協同することで発見したこと

今後の地域づくりは、誰もが、どんな状況でも安心して暮らせる事が課題となってすすめられます。そのためには地域のさまざまな団体や個人が連携、提携していくことが必要であることを改めて発見しました。また、地域社会の中で共済も含めた生協への期待や関心は高いということ、また今後の関係性を強めることで高めることができると改めて発見しました。

### 将来イメージ

実行委員会では2017年度も関係性を継続して、地域包括ケアの充実のための交流や情報交換を行うことを決めています。より実践的な交流会を行い、安心して住み続けられる地域づくりに寄与したいと思います。

取組みを通じて、地域の生活支援の意見交換（市町村などの協議体）に参加依頼が増えています。地域づくりの一員として生協も関係を強めていければと思います。また生協組合員の理解を高め、「地域マップ」などの地域づくり活動や助け合い活動のようなボランティア活動を広げていきたいと思っています。

### 成果と教訓

#### 成果

- 10団体（うち5生協）学識者の実行委員長という幅広い団体と実行委員会を作り、協力協働の中で企画を推進出来ました。
- 学習交流会は生協関係者約100名、行政・社協・事業者約160名、合計約260名の参加者を得ました。また内容も好評でした。
- 700部の集会報告集「いきいき地域づくりの手引き」を作成し、住民本位の地域包括ケアに向けた手引書を発行できました。結果として、生協の認知や信頼を高めることができました。

#### 教訓

- 今後の地域づくりはそれぞれの団体や個人の連携と提携、協力・協働の中で進められるという認識を持つことが出来ました。
- 「地域包括ケア」という非常に大きなテーマの取組みも、地域で実行委員会を作るなどすれば、生協も中心的な役割を果たすことが出来る事がわかりました。
- 今回のような諸団体と実行委員会などを作るなどの協働を通じて生協の地域への認知も広がるということがわかりました。
- 「地域包括ケア」という地域社会について生協組合員も関心を持つ必要があることがわかりました。

# 特定非営利活動法人 フードバンク信州

## 活動名 | フードバンク活動普及・啓発事業

### 活動のきっかけ

県内全域を対象として安定した事業推進をはかる資金や食料を提供する協力企業、団体の確保、地域の実情に合わせて受給調整のためのネットワークづくり、全体をマネジメントする本部拠点施設整備や人材の確保など、体制整備が急務となっています。

### 活動内容概要

1. 食品の受領14トン
2. フードドライブ活動 …………… 64回
3. セミナーの開催 …………… 4回 190名
4. ボランティア養成講座の開催 …… 3回 39名
5. 地域拠点の整備 …………… 3箇所(上田市、松本市、飯田市)
6. 関係者会議の開催 …………… 4回(上地域2回、佐久地域1回、松本地域1回)



### 協同した団体

- 長野県生活協同組合連合会
- JA長野中央会
- 長野県労働者福祉協議会

### 地域の概要

県内の生活困窮者支援機関の窓口からの緊急的な食糧支援ニーズには対応できるようになり、また、提供協力企業やフードドライブを行う自治体、団体、活動に参加する市民も増えてきました。



### 他団体と協同することで発見したこと

- ①長野県生協連…松本から長野への搬送の協力、協同組合のフェスティバルのフードドライブ
- ②JA長野中央会…ビル内でのフードボックスの常設化、米倉庫の借用援助
- ③長野県労福協…メーデーでのフードドライブ実施
- ④長野市社会事業協会…施設機能を生かした食料保管、仕分け、個人への食料郵送
- ⑤ワーカーズコープ、労協ながの…フードドライブでのスタッフ協力

### 将来イメージ

長野県内のより多くの食品事業者が事業に賛同して、製品を提供し、また、多くの企業、団体、個人が事業に賛同して、賛助会員となり資金を提供し、多くの行政機関が事業に賛同して、活動に協力してくれている状況を目指します。同時に、提供した食料が生活困窮者の自立支援につながり、県民の「食品ロスの削減」の意識が高まること、住民が自分の地域で活動に参加し、支えあいの仕組みに広がることを目標とします。

### 成果と教訓

#### 成果

フードドライブが60回以上開催でき、活動推進セミナーなどをきっかけに自主的にフードドライブを開催する行政、社会福祉協議会などが増えました。また、4回の活動推進セミナーに延べ190名が参加しました。

ボランティア養成講座を通じて、地域の活動の担い手ができました。ホームページで活動を紹介することで関心を持つ市民や企業が増えています。

#### 教訓

できるだけ多くの団体に声を掛けることで新たな広がりが生まれました。時間を掛けて取り組むことで動きが生まれてきました。また、フードドライブの開催に行政が積極的に協力してくれました。

# 認定NPO法人 フードバンクふじのくに

## 活動名 | フードバンクを活用した命を守り、環境を守る活動

### 活動のきっかけ

住民に身近なユーコープの店舗に食品回収ボックスを設置することにより、地域の様々な方が、フードバンクの取組みを知ることになります。このことから、生活困窮者発見のアウトリーチの効果、気軽にできるボランティアとして、地域住民が生活に困っている方の支援の一部を食品寄付を通じて担うことで、地域の支えあいを熟成させる効果があると考え、活動を始めました。

### 活動内容概要

印字ミスや外箱の破損等の理由で流通させることができず、処分せざるを得ない食料が年間数百万トンに及ぶとされているにもかかわらず、明日の食事にも事欠く生活困窮者が増加している現状があります。静岡県においても全国の動向に違わず生活困窮者が増加していて、緊急の支援が必要な相談が1割以上あり、その大半が食料がないという相談であることがわかりました。静岡を管轄するユーコープでは、まだ食べることができるにもかかわらず捨てられてしまう食品が一定量あり、この二つの課題を結びつける方法としてフードバンクを活用し人の命を守り(貧困問題解決)、環境を守る活動(環境保全)を行います。



### 協同した団体

- ◎生活協同組合ユーコープ

### 地域の概要

フードバンク事業は、市民への周知が足りないため、市民からの寄贈はまだまだ少ない状況です。一方で、支援を必要とする方たちからの要請は日に日に増えていて、年間2,000件以上の食料支援要請に応える必要があります。



### 他団体と協同することで発見したこと

ユーコープには、キャンセル品などの処分せざるを得ない食品が想像以上にたくさんあるということ、NPO法人では考えられない事務処理の正確さや、計画に基づいた活動展開を学ぶことができました。小さい法人でも、こういった民間の効率的な視点は導入していく必要があると感じました。また、活動の内容を協議していく中で、当法人の職員も、企画立案について失敗をしながらも経験を積むことが出来たのは収穫でしたし、協同したユーコープ自体も地域の住民の寄付意識の高さを再発見できたと思います。

### 将来イメージ

県内全域の自治体、社会福祉協議会、ユーコープ以外の食品小売り、食品会社、NPO団体、ボランティア組織、自治会などあらゆる方々にフードバンク活動に参画していただき、フードバンクを地域の仕組みとして定着させたいと考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

- ①ユーコープからの食品寄贈量  
→3,979キロ
- ②夏季および冬季 ユーコープで設置した食品回収ボックス回収量  
→1,501キロ
- ③食品提供件数  
→1,513件

数字では表すことが出来ませんが、県内35市町のすべての地域において、社会福祉協議会もしくは、自治体のどちらかに食料支援を求めた場合、食料支援が行える体制を作ることができました。これは全国でも希少な事例です。

#### 教訓

予算建て通りにうまくいかないことが多々あり、当法人の助成事業の事務について、学び直す必要があることは教訓になりました。今後は、こういったことがないようにしていきたいです。

# 生活クラブ生活協同組合（神奈川）

## 活動名 | 東日本大震災・復興支援まつり2016

### 活動のきっかけ

復興支援まつりは2013年から継続して実施していて、今年で4回目の開催です。目的は震災復興・脱原発社会に向けた活動を風化させないで継続していくこと、また、キーワードとして「再会・新たな出会い」、「忘れない」、「つながる、ずっとつながる」を掲げ、岩手、宮城、福島で暮らし、生産し、活動する市民と首都圏で生きる市民との交流を継続して行うことで、これからの新しい連帯につなげていきたいと考え、毎年1回開催しています。

### 協同した団体

- 神奈川W.Co連合会
- NPO法人 WE21ジャパン
- 公益財団法人 共生地域創造財団

### 活動内容概要

#### 1. 2016年11月に山下公園（横浜山下町）にて復興支援まつりを開催

開催テーマは、神奈川の地で「復興支援」、「脱原発・福島」とし、被災地で復興支援活動をしている団体、被災地の生産者、神奈川で被災地（被災者）を支援している団体が一同に会して復興支援まつりを開催し、地域の市民に震災後の現状や課題の共有、震災を踏まえた社会づくりを考える機会をつくることができました。

当日の来場者数は約10,000人。当日出展団体の売上金は約400万円。カンパ金は9万3千円。売上金の一部と集まったカンパ金は、実行委員団体が支援している復興地域の団体へカンパ金として送付しました（合計34万円）。

#### 2. 復興支援まつり開催準備のために実行委員会を構成、5回開催

実行委員会団体は、神奈川W.Co連合会、NPO法人WE21ジャパン、社会福祉法人いきいき福祉会、NPO法人地球の木、公益財団法人共生地域創造財団、神奈川ネットワーク運動、生活クラブ親生会、さんえすクラブ、福祉クラブ生協、生活クラブ生協の10団体で構成しています。



### 他団体と協同することで発見したこと

協同してまつり開催に向けた準備と復興支援まつりを開催することを通じて、それぞれを通常行っている復興支援活動を知ることができ、被災地を知るツアーへ合同でいくなどの連携を高めることにつながりました。

### 将来イメージ

被災地の状況や被災地（被災者）については、フォーラム等を通じて深く知る活動が必要です。

このことを踏まえて、2017年度は、「(仮称)復興フォーラム」を開催し、被災地の状況や被災地を支援している団体、首都圏に避難している人たちの現状を深く知ること、知って今後の活動を考える機会をつくることを検討しています。

### 成果と教訓

#### 成果

- 復興支援まつりへ出展参加した団体は92団体（103ブース）。名義後援団体は19団体、協賛団体は181団体。ステージイベント参加団体やイベントスペースでの参加団体など多くの団体の参加とご支援をいただいていた復興支援まつりを開催することができました。
- 当日の来場者数は約10,000人と大勢の市民に、被災地団体や被災地の現状をしってもらうことができました。

#### 教訓

復興支援まつりだけでは、被災地の状況や被災地（被災者）を深く知ることにはなりません。フォーラム等を通じて深く知る活動が必要です。

# 生活協同組合あいコープみやぎ

活動名 | お茶っこケア 地域サロン「よってがいん」

## 活動のきっかけ

人の繋がりを新しく紡ぎながら、地域コミュニティを作り直すことがますます重要だと思います。渡波地区の新旧住民が交流し、顔見知りになり、仮設の方々に励ます機会を作ろうと考え、今回の活動を申請しました。

## 活動内容概要

### 1.「お茶っこ夏まつり・流しそうめん」

流しそうめんをメインにお魚バーベキュー、かき氷、ポップコーン、お茶っこコーナーなどを設けて、渡波地区の新旧住民の皆さんとの交流ができる場を作ることができました。

### 2.「お茶っこサロンシンポジウム・みんなでいきいき健康に地域共生を考えよう」

身近な渡波地域での地域共生社会を参加された皆さんと共に考えました。よってがいんの隣に借りた新しい居場所のお披露目もできました。



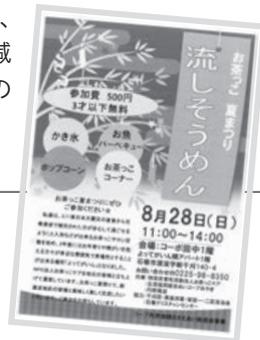
## 協同した団体

- NPO法人お茶っこケア
- NPO法人 井戸端介護
- 特定非営利活動法人 笑いの館四季
- マルトク丹野商店
- 石巻仮設住宅自治連合推進会
- 石巻市渡波栄田第二地区
- 生活協同組合あいコープみやぎ

## 地域の概要

今回申請する活動を行う「石巻市渡波」は、津波被害を補修して住んでいる家、自力再建で新築された家、そして仮設住宅が混在している地域です。さらに「新渡波地区」が宅地造成され、石巻市で二番目に大きな復興住宅建設が進められています。

この復興公営住宅や道路などインフラ整備だけを見れば復興が進んでいるように見えますが、一方で仮設住宅を出る目途の立たない方々もまだまだ多く、被災地の中でも格差が広がっています。仮設住宅には空室が目立ち、全国からのボランティアも減り、仮設に残っている方々の孤立感が深まっています。



## 他団体と協同することで発見したこと

協同団体丹野商店さんからのご紹介で、高橋徳治商店さんからお茶っこ夏まつりの食材を提供していただくことになりました。区長さんへお知らせのお願いをきっかけに、地域の様子を伺いながら意見交換することができました。協同することで、お互いの活動への理解と信頼関係が深まり、人から人へと活動の輪が広がりました。

## 将来イメージ

「よってがいん」では、重度障害をお持ちの方が車いすで移動しやすく過ごしやすいように隣接するアパートの1階を借りました。介護職員は、重度障害の方へ対応できるように資格を取得し研鑽を積んでいます。今後も、ご高齢の方や障がいをお持ちの方など様々なご相談に耳を傾けていきたいと思えます。課題解決に向けて、地域の皆様の地域資源を繋いでいけるような応援をしていながら、明るく前向きに地域コミュニティー再生へ寄与していきたいと思えます。

## 成果と教訓

### 成果

#### ①「お茶っこ夏まつり・流しそうめん」

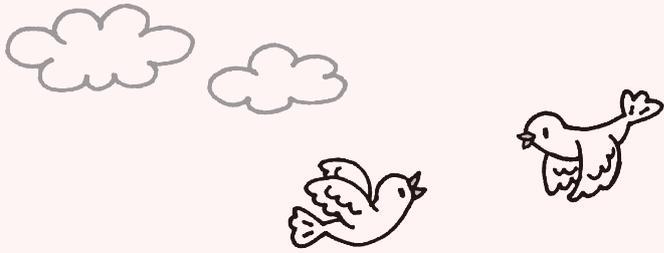
重度の障がいをお持ちのお子様とご家族が安心して参加できるようにと会場の環境の整備を行いました。これらの作業には、地域の皆さんがボランティアで作業のお手伝いをしてくださいました。当日は、このお子様をはじめお子様の友人やボランティア繋がりの皆様が多数参加されました。利用者さんと地域の皆さんと「おいしく楽しく」交流することができました。夏まつりをきっかけに困っている方への支援を地域の皆さんと共に考え、支援の輪を広げていくことができました。

#### ②「お茶っこサロンシンポジウム・みんなでいきいき健康に 地域共生を考えよう」

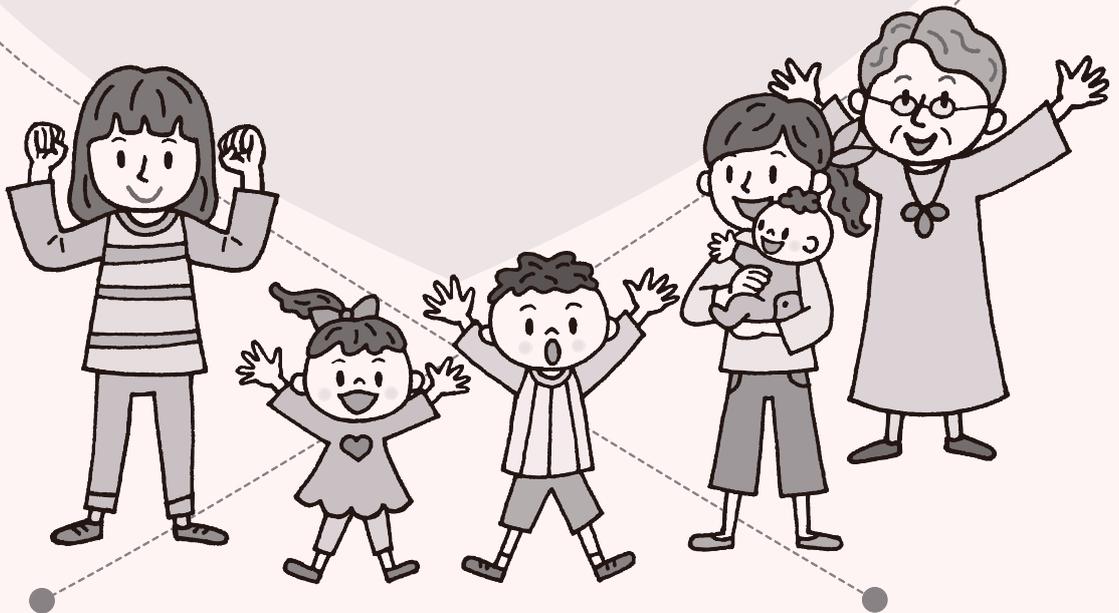
誰もが住み慣れた地域でいきいきと健康に過ごせるようにと居場所を作っています。共生型の社会を一緒に考えたいと思う皆さんがお集まりくださいました。参加人数は少なかったものの、緊急時対応に困ったことや移動時の困難さなどディスカッションしました。お茶っこケアでは、介護職員が医療的ケアを行うことができるように研修に参加して資格習得しました。

### 教訓

あいコープみやぎは、仙台に拠点があるので石巻での被災地活動は後方支援が主になります。被災地への支援活動＝被災地のコミュニティー再生へ向けた企画を他団体と協力して行うことができたことは、ひとえに関係された皆様のご尽力のおかげと感謝しています。しかしながら、11月シンポジウムの参加人数は伸び悩みました。「よってがいん」では、日々の業務もある中でできる限りの宣伝を行っています。参加人数を増やし居場所作りのコンセプトや想いを広めるためには、あいコープも地元での活動実践が時として必要であることがわかり教訓となりました。



# 女性と子どもが 生き生きする





# 認定NPO法人 とちぎボランティアネットワーク

## 活動名

学齢期にある低所得母子家庭等へのフードバンクを利用した米の定期支援による家計支援・生活相談支援(奨学米プロジェクト)

### 活動のきっかけ

全体からみると母子家庭からのフードバンク食品利用は非常に少なく、来初経緯も市役所、保健所など公的機関からが多いことがわかりました。困窮母子家庭の把握と関係づくりは民間では非常に難しい現状があります。こうしたことから、ともに活動を行う団体を増やし、学齢期の子どもがいる母子家庭等をより多くキャッチする体制を作るため、この活動を開始しました。

### 活動内容概要

宇都宮市を中心とした栃木県県央地区の学齢期にある母子家庭などの低所得世帯に対し、本会が実施するフードバンクで集めた米を毎月寄贈し家計の支援を行います。それとともに、当会のボランティアスタッフ等と共に支援対象者と関係を作り、孤立しがちな低所得母子家庭の生活相談や対応を行います。

対象世帯数は25世帯で、配送方法はボランティアが相手先に届けたり、支援対象者が直接取りに来る形式をとっており、集めた食品は、宇都宮市の倉庫と大田原市(県北)の2カ所に保管しています。とちぎボランティアネットワークととちぎコープ生活協同組合の他に、生活クラブ生活協同組合栃木、フードバンク鹿沼(鹿沼市社会福祉協議会)と連携してフードバンクと食品集めのフードドライブと本事業を周知して、助け合いの輪を広めています。



### 協同した団体

- とちぎコープ生活共同組合
- 生活クラブ生活協同組合 栃木
- フードバンク鹿沼  
(鹿沼市社会福祉協議会)

### 地域の概要

母子家庭は、困窮の度合いが非常に高いと推定されています。2010年の宇都宮市の母子家庭は4,065世帯(父子家庭は715世帯)であり、うち母子のみの世帯は2,809世帯(父子のみは311世帯)です。

2012年の国の統計では、ひとり親家庭の貧困率は50.8%で、国全体の貧困率16.1%を大きく上回っています。

### 他団体と協同することで発見したこと

事業を広く周知するため4つの団体の共同という形をとり、総論的に大賛成という形で始まりました。しかし、団体の特性や地域的な活動範囲が異なり、均一な活動が困難であることを認識しました。当方と連携先とでできることとできないことをお互いに認識して、広域に均一な活動と言うよりは役割分担や可能な活動区分を確定した上で活動するとお互いにスムーズな活動が可能だと思いました。

食品を集めることに関しては、比較的わかり易い活動で各団体熱心に活動できたので、もっとわかりやすい活動メニューを増やすと巻き込む人数が増えると思いました。

### 将来イメージ

ひとり親家庭への生活相談支援については、関係性をもつ時間が少ないのでまだ入口に立った程度ですが、時間をかけて聞き取り及び支援の内容を深めていきたいと思います。事業を行うことにより得た世間から見えにくい困窮者の事情を、個人情報保護法から外れない範囲でマスコミ等を使って発信します。そのことにより、地域に助け合う人が多くなる社会を構築する活動を展開していきます。

### 成果と教訓

#### 成果

目標の支援世帯数(25世帯)には及びませんでした。21件の世帯に米の支援(2.03t)をすることができました。支援世帯については、米以外にもフードドライブや企業からの寄贈食品も渡すことができ、集めた食品に関しては14.1tに及びました。

さらに、奨学米プロジェクトで関係ができた人は、少しずつ当会と信頼関係を築けてきました。食品を引き渡す際に悩みや困り事を聞くことができて、子どもの制服については2件の寄付、フードバンクで実施している炊き出しにボランティアに参加した人1名。当会が加わったクリスマスイベント(サンタdeラン)に参加した親子2名、子ども食堂に繋がった世帯3世帯と社会と孤立していた世帯が徐々にではありますが社会との接点の機会に参加するきっかけとなってきました。

#### 教訓

フードバンクに対して、協同団体個々の認識の差が大きく活動のベクトルをあわせるのに苦労しました。時間等の調整が難しいですが、会議の場が必要だと感じました。

女性のひとり親家庭についてはダブルワークで朝から夜遅くまで働いている人が多いので配達しても不在がちで、食品をお渡しすることもできない状態でした。今後この事業を継続して行う場合には、自宅玄関先に引渡すためのボックスなどを設置するなどの工夫が必要です。

個人情報の壁を超えるべく、情報を持っている機関と連携する体制をとってひとり親困窮世帯とアクセスする方法を切り開く必要性があると考えています。

# 特定非営利活動法人 ポトスの部屋

活動名 | 子ども・若者の居場所の提供と生活困難家庭の中学生らの学習支援並びに相談活動

## 活動のきっかけ

子どもの貧困は子どもの責任ではなく、保護者の努力にも限界があります。格差がますます広がっている中、施策を待つのではなく、地域でできることから始めることが喫緊の課題です。彼らに並走しながらその成長を見守ろうと、この活動を始めました。

## 活動内容概要

### 1. 居場所活動

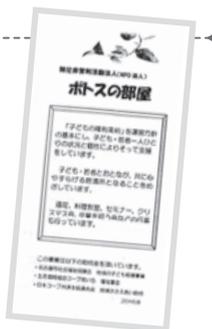
不登校や引きこもりの子ども・若者を対象に居場所の提供をしています。マンガや小説などをおき、インターネットも自由に使えます。

### 2. 無料学習支援活動

生活保護やひとり親家庭など経済的に困難な中学生を対象に、無料学習支援「学び場」(通称『高校に行こう会』)を熱田区で1か所、港区で2か所実施しています。

### 3. 相談活動

予約制で随時、社会福祉士による暮らしの困りごとや子育てや家族の悩みごとの相談、元教員による学習や進路の相談に対応しています。



## 協同した団体

- みなと医療生活協同組合
- あいち定時制・通信制父母の会
- ボンペンタル

## 地域の概要

近年、子どもの人数が減少している一方で、子ども・若者の不登校や引きこもりの数は依然として増加しています。また、日本の子どもの貧困率は高く、特にひとり親家庭においては半数以上にもなっており、「子どもの貧困」そして親から子への「貧困の連鎖」が大きな社会問題になっています。



## 他団体と協同することで発見したこと

みなと医療生活協同組合との協働事業ということで区役所や社会福祉協議会、利用者の信頼を得ています。あいち定時制・通信制父母の会からの情報が不登校や高校中退した子の進路決定に役立ちました。学習支援として始めましたが、それぞれ事情を抱えた子どもたちに対しては生活ごと支援にならざるを得ないので、専門職との連携は不可欠であると感じました。また、おてらおやつクラブやフードバンクセカンドハーベスト名古屋とつながったことで、おにぎりの他に味噌汁やスープ、お菓子や果物を子どもたちに提供できるようになりました。

## 将来イメージ

不登校や引きこもりの子どもや若者を社会に送り出し、自立・自律するための後押しをしていきます。生活保護やひとり親家庭の子どもの学習支援をすることによって、高校進学を実現し、そして、卒業まで見守っていきます。法人格を取得したことによって社会的信用が増し、学校や区役所、児童相談所との連携が取りやすくなったので、今後も関係諸機関との連携を強化していきます。スタッフのほとんどが高齢者ですが、次代を担う子どもや若者の幸せのため尽力していきたいと思えます。

## 成果と教訓

### 成果

#### ①居場所活動

不登校の中学生の学習支援をして、高校への入学を後押ししました。春休みに自分で計画をたて社会見学を実施する子や、単位をとれなかった子にレポートの作成支援をし、1年次を終えることができた事例がありました。夏休みや短縮授業になると、夜の学習支援に来ている中学生やポトスの部屋で学んだ高校生が遊びにやってくるなど、彼らの居場所になっています。

#### ②学習支援活動

大学のボランティア講座の講師を依頼され、活動紹介をしました。大学生サポーターの存在は学習支援ばかりでなく、関係づくりにも役立っています。大学生にとってもスタッフの経験談を聞いたり、教える技術を学んだりできる場所になっています。また、行事を通して、学習支援の場では見えなかったそれぞれの生活の様子や性格が見え、関係も親密になりました。世代の異なる集団の中で、それぞれが影響しあい相互理解できる貴重な場になっています。

#### ③相談活動

ポトスの部屋を休みがちになったり、児童相談所の一時保護になったりする子が出た場合、社会福祉士の資格のあるスタッフが家庭訪問したり、区役所や児童相談所に出かけたりしています。なお、相談活動については、ポトスの部屋の利用者以外も対応しています。

### 教訓

貧困というのは単に経済的なことばかりではなく、繋がりがなく困ったことが起きて相談する所がないということが大きく、ポトスの部屋としても居場所の提供と学習支援だけではすまなくなり、親も含めた生活まで関わらざるを得なくなっています。そのためには学校や区役所、児童相談所等との連携が不可欠になり連携がますます必要となってきたと感じました。

# 生活協同組合コープこうべ

## 活動名 | Kids Creative City! コープこうべ2016 ～子どものまちづくり～

### 活動のきっかけ

Kids Creative City! コープこうべは、保護者や、スタッフたち大人も一緒になって、子どもたちの社会性と、より広い視野で社会を捉える力を養う機会をつくりあげます。2015年度に三木市および三木市教育委員会の後援を得て、試験的に実施し、定員を超える応募をもらい、子どもはもちろんのこと、保護者からも多くの賛同を得ました。

### 活動内容概要

Kids Creative Cityは子どもたちがまちづくりを通じて、自分たちのまちに必要なものは何かを自ら考え、行動することによって、子ども達自身の社会性を育むイベントです。2016年度の開催では主に3点の取組みを行いました。

#### 1. 子ども会議・まち建設日の開催

30名の子どもリーダーを募集し、事前に2回の子ども会議とまち建設日を行いました。会議では19の仕事と、仕事に込める“願い・人・物・流れ”を考えました。まち建設日では、仕事用の看板作成、会場設備などの準備を子どもたちが中心となって進めました。

#### 2. Kids Creative City! コープこうべ まち本番の開催

リーダーを含む地域の小学校が参加し、子ども会議・まち建設日を経て作られたまちを運営しました。まちでは独自通貨の“コピー”を使用して、物の売買取、”起業”による新しい仕事が開催されました。

#### 3. 保護者説明会・まちへのツアーの開催

保護者説明会では子ども会議の様子や、大切にしている視点を伝えることでイベントの目的・仕組みについて理解を深めてもらいました。また、まちのツアーではまちでの取組みに実際に触れることで子ども達の主体性、創造性に触れてもらう機会となりました。

### 協同した団体

- 特定非営利活動法人 cobon

### 地域の概要

ニートという言葉が注目される社会状況の中で「仕事ってなんだろう」「働くってなんだろう」と、多くの学生、社会人が仕事や働くこと自体について悩みを抱えています。



### 他団体と協同することで発見したこと

子どものまちでは、長年、子どものまちづくりに携わるNPO法人cobon独自の運営により、子ども一人ひとりの自主性と創造性が引き出されました。子ども同士が自ら協働する姿に接し、大人にとっても子どもとの接し方や子どもに対する大人の姿勢などを改めて見つめなおすとともに、個々の成長への寄与にとどまらず、生協の根幹である「愛と協同」の精神を地域の子ども、子育て世代に体験していただく貴重な機会となりました。この新しい子育て支援の形は、外部の他団体との協同があったからこそ実現できたことだと考えます。

### 将来イメージ

地域の多世代の方が取組みに関わることで、子どもを中心とした地域のつながりが生まれます。また、地域の子どもが継続的に社会性を学ぶ体験学習の場となります。

### 成果と教訓

#### 成果

- 子ども会議30名、Kids Creative City当日は125名の児童が参加し、当日参加者のうち半数が2015年度参加者のリピーターとなりました。リピーターが半数を超えたことで、参加者のプログラムへの理解も深まり、学びの場としてのまちの質的向上につながりました。子どもへのアンケートでは、参加に対する満足度も92点と高い結果が得られました。
- 事前アンケート結果では、保護者がKids Creative Cityに対して主に子どもたちの“自主性”“協調性”の成長に期待していることが分かり、子どもの自主性を引き出すKids Creative Cityは保護者の期待に合致していると考えられます。
- 保護者へのアンケート結果から、次回以降ボランティアなどで積極的に参加したいと思う人が全体の半数を超えていることが分かりました。これまでNPO法人cobonで行われた同様のプログラムでは5～10%であることから、これは驚異的な結果となりました。今後、地域の子育て層と生協、他団体が協同して、本イベントに取り組むことへの期待が高まりました。

#### 教訓

- 参加した子どもの保護者も何かしらの形でイベントに協力したいと考える方が多くいました。そのような保護者に運営側として参加いただくことで、より地域に根付いたイベントへ発展していくことが期待できます。今後は運営側として保護者が参加しやすい方法も取り入れながら、継続的に開催していくことが重要と感じました。
- 大人側での準備や決まりごとを減らすことで、より子どもたちの主体的な活動が生まれることがわかりました。

# 生活サポート生活協同組合・東京

## 活動名 | 子育て・親育てを通じた当事者のエンパワーメントと地域社会づくり

### 活動のきっかけ

困難の連鎖を断ち切っていくには、高い専門性による支援と社会的に孤立しない仕組みの両方が必要で、早急にネットワーク構築をはかり、具体的に支援していきたいと考え、活動を開始しました。

### 活動内容概要

1. 気づきを大切にしたい主体性を育む当事者同士の学び  
「ほっこりカフェ」全12回、「初めての子育て講座」全2回を開催しました。
2. ケアする人のケア、スキルアップ継続研修の開催  
テーマは「働きがいのある職場にするために～組織の健康度・個人の健康度をあげる～」です。
3. 地域会社づくりにむけたネットワークの構築  
パルシステム東京への働きかけを行い、広報・会場提供に協力いただきました。



### 協同した団体

- NPO法人 ゆったりーの
- NPO法人 ワーカーズコープ東京  
中央事業本部（北山伏地域交流館）
- 遊葉館
- 生活協同組合パルシステム東京

### 地域の概要

相談機関である当生協では、貧困、多重債務、親と子の確執、精神疾患による社会的孤立など多様な相談を受けています。蓄積した相談データを分析していくと、相談者の年齢と関係なく、人生上のさまざまな困難を乗り越えて生きていく力が弱まったと感じられました。そしてこの傾向は世代を超えて連鎖していくという印象を持ちました。

### 他団体と協同することで発見したこと

生活サポート生協の相談事業から類推していた子育ての課題について、ゆったりーのとの協働で実態を把握できただけでなく、お互いの事業領域が重なる部分で今後必要と考える企画への協力関係を構築できました。

同じ館内（新宿区地域交流館）で活動している協同団体の利用者がこの企画によって重なっていることが分かり、現在生じている問題の背景についての理解が進み、課題解決に向けた情報共有ができました。くらしも仕事も縦割りになりがちなか、横のつながりができ関係性を互いに認識できたことは大きかったです。地域の関係性の構築がくらしの安心を支える大きな柱になるということを実感させられました。

また、一昨年に事務所移転した生活サポート生協にとっては、地域に根付いて活動している団体との協同は地域を早く理解できるツールとなりました。

### 将来イメージ

- ①それぞれの課題を共有し一緒に講座等を企画して、現代社会や地域が抱えている課題解決のために連携していきたいです。
- ②それぞれの長を生かして情報交換し、自組織の事業の中で生かしていきます。特に生活サポート生協は相談機関なので、地域やくらし課題を解決に向けたハブとして、地域の活動団体と巨大な地域生協など、必要なところをつないでいく役目を担いたいと思います。
- ③この助成事業の延長では、特に子ども支援に力を入れ、将来にわたり生きる力の土台になる「愛着形成」に関する情報提供を末永く行いたいと考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

- ①年代の異なる層を事業対象としている団体との協働で、互いにミッションや目的、目指すべき方向性を再確認できました。
- ②スタッフが自組織を客観的に見ることができ、自らの仕事に対して前向きになれました。
- ③新宿まちづくりネットワーク懇談会のメンバーからこの企画は構築していったこともあり、助成制度の活用により、地域のいろいろな団体、さまざまな資源発掘につながりました。

#### 教訓

- ①中核を担った3団体共に小規模団体で人員が少ない上、ギリギリのスタッフ人員で回しており日常業務で精一杯のため、助成事業の企画側スタッフは共通理解が進みましたが、組織全体になると十分伝えきれませんでした。
- ②最初の一步として、お互いを知るといった視点だけで研修を実施しても、自組織・自己の振り返りになったと感じました。
- ③生活サポート生協が介在して地域課題を強く意識し事業実践している団体と巨大な地域生協をつなぐ役目を担うことで、地域の課題解決に向けて可能になることがたくさんあることに改めて気づかされました。
- ④個人情報の取り扱いや共有が難しかったです。しかし共有できれば、お互いの事業領域で生じる課題と重なり合い、共通のテーマを発見できました。課題の解決には単体では不可能であることを改めて強く実感しました。

# 特定非営利活動法人 エー・ビー・シー野外教育センター

## 活動名 | 子育てママの「心も体も気軽な学び場」事業

### 活動のきっかけ

子育てママたちに「子育て環境について」の参加型学習会と「子どもたちへの食育料理教室」を託児の準備をして開催し、自分の有意義な時間を作ったり、孤独な子育てから仲間と一緒に育てていく環境を体験してもらいたいと考えました。また、生協・NPO法人・地域の行政と三者で連携して「女性と子どもたちが生き生きと暮らしていける環境づくり」を進めていきます。

### 活動内容概要

グリーンコープ内の研修室と臼杵市市役所に隣接する「子育て支援センター ちあぽーと」でそれぞれ4回ずつ研修会を実施。それぞれの会場で託児を行いながら、午前中の90分で『子育て環境についての学習会』と題し、「オリエンテーション」「親」「こころ」「しつけ」など子どもとの関わり方について学びました。残りの30分で食育についての料理教室を進めながら、完成間近には託児の子どもたちも合流して試食を行いました。



### 他団体と協同することで発見したこと

託児があるのでお母さんが安心して研修に参加でき、リフレッシュできること、すぐに実践できる食育研修があるため身近に感じ学びやすいなど、子育て研修をする上で不可欠な部分を協同で行うことで、補い合い、完成されたプログラムとなることがわかりました。

また、その親しみやすく安心した環境にて研修を実施することが参加者の心の充実感につながることもわかりました。

### 将来イメージ

- 様々な地域で実施できるよう関係者に働きかけていきます。
- 会場を行政が管理するセンターで行うことでこの事業の様子・内容・意義・参加者の声・成果をもらい、行政からの補助が受けられるような流れを作り継続していけるようにします。
- 受益者負担を増やしても参加者が確保できるように、内容と費用がマッチするように計画していきます。

### 協同した団体

- グリーンコープ生活協同組合おおい
- ワーカーズ・コレクティブ  
キッチンスタジオ すまいる
- 社会福祉法人 グリーンコープ  
福祉サービスセンター であい・ふれあい

### 地域の概要

子育てに追われるママたちにとって、子どもを預かってくれて、しっかりと学べる場などはとても少なくなっています。一方で、家庭に孤立して子育てしている環境もあります。

### 成果と教訓

#### 成果

託児を準備することで子育て中のママにひと時の自分の時間を取ってもらい、その時間を研修と食育の料理教室をおこなうことで子育てのブラッシュアップしてもらえました。

また、研修では「Nobody's perfect (誰も完璧な親なんていない)」という参加型研修会においてグループカウンセリングを行うことで心の安らぎも得られました。料理教室でも食材選びの大切さや成長段階の栄養の話など実践的ですぐに役立つ内容を組み立てることができました。

最終的には2会場で開催でき、臼杵会場は計4回で45人の参加があり、大分会場は計4回で35人の参加がありました。臼杵会場では市役所や公民館の子育て担当の方の見学や参加もあったため、地域の子育て支援に貢献できたと思います。

#### 教訓

各々の団体が得意とする分野で力を発揮することで、参加者のお母さんにとって偏りのない様々な学びの機会を提供できることがわかりました。また、他団体と共同することで事業自体の新たな可能性が広がり、個々の団体の発展にもつながるといことがわかりました。一方で、他団体との様々な調整など戸惑った点もありました。

## 活動名 | 産前産後の女性を中心とした多世代交流

### 活動のきっかけ

近年、産前産後の女性の健康問題を取り扱う情報やサービスは散見されますが、根拠に乏しいものも多く、逆に健康問題を発生させている事例も発生しています。そのため、妊娠・出産を経験する年代の女性が多い東灘区において、「全ての年代の全ての女性が、自分が暮らす地域で生涯を通じて健康で自分らしい生活を送るため、医学的かつ社会的に包括的な支援を行うこと」を目的にスタートいたしました。

### 活動内容概要

本事業では女性が自分自身で健康管理できるようになることを目的に産前産後サロン、多世代交流サロンを展開しました。

姿勢、腰痛、尿もれ、肩こりなど健康に関わる話題を通して、理学療法士が知識や技術（体操）を紹介し、予防やセルフケアについての情報を提供しました。産前産後サロンでは託児を設け、子どもを同伴して参加できるよう工夫しました。産前産後サロンは初回を学童保育Terakoyaで、2回目は新設されたコープこうべ保育園どんぐりっこで、多世代交流サロンの2回については、コープは～とらんどハイム本山で開催しました。



### 協同した団体

◎コープこうべ福祉介護事業部

### 地域の概要

活動地域の神戸市東灘区は、子育て世代が多く、年間出生数が1,800人前後で推移しており、産後数年以内の女性が多いことが推測されますが、母親自身の健康問題へのケアは個々に任されているのが現状です。



### 他団体と協同することで発見したこと

コープこうべと協働することで、地域における様々な世代への働きかけを行うことができました。

また、コープこうべの機関紙「きょうどう」に告知を掲載したところ、電話での申込みが多く、これまで当法人の事業ではWEB経由での申込みが主であったため集客方法について再考する機会となりました。また、託児併設について、対象者の安全確保のための見直しをする機会を持つことができました。

### 将来イメージ

今年度はテーマごとに集客、開催しましたが、今後はシリーズ化し、継続参加しやすい企画を検討します。産前産後女性が同じ状況に置かれている者同士で交流する場、また多世代交流として、高齢者と子育て世代が交流できる場をつくり、結果的に東灘区がどの世代にとっても住みやすく活気のある街になるように今後も貢献していきたいです。

### 成果と教訓

#### 成果

本事業の参加者は4回でのべ49名（うち子ども11名）でした。多くは近隣住民の参加でしたが、中には大阪などからの参加者もいらっしゃいました。また、多世代交流サロンについては夫婦で参加される方も複数みられ、女性のみならず夫婦そろって健康について考える機会として利用いただけました。

産前産後サロンにおいては、サロンののち個別対応の時間を設けることで、参加者が抱えていた悩みを具体的な改善方向へ導くこともできました。参加者の中には継続を希望する声が複数聞かれ、今後企画を拡充し継続することでより多くの方の健康に貢献できると考えています。

#### 教訓

参加者相互の交流をコーディネートすることの難しさを痛感しました。参加者の多くは自らの健康について関心をもって参加しており、参加者相互の交流という点ではあまり積極的ではない印象を受けました。多世代交流サロンについても高齢者の参加者が多く、異世代交流という点については今後企画を検討、拡充させることの必要性を感じました。

# 生活協同組合コープ自然派奈良

## 活動名 | 子どもたちがイチからつくるティーパーティ

### 活動のきっかけ

自ら子どもたちが企画し、実現する場を提供し、支援します。また、食と農に関して知り、考える機会を設けることが目的です。

### 活動内容概要

「奈良では」のこどもティーパーティを、子どもたち自身が考え・学び・つくり上げる全6回の連続講座を開催しました。

- 9月 「農とお茶のお話」「茶摘み&紅茶の加工体験」
- 10月 「葛菓子づくり」「こども会議」
- 11月 「紅茶の淹れ方・楽しみ方」
- 12月 「『奈良では』のこどもティーパーティ」

奈良の地紅茶をテーマに、有機農の生産者や紅茶インストラクターなど専門家に学びながら、小学校3年～6年の25人の子どもたちが「自分たちにはできないティーパーティ」を企画・実施しました。

目的は、子どもたちが主体的に体験し、学ぶ機会をつくることと、食や農業について知り、考える機会を提供することでした。全国各地紅茶サミットin奈良の一環として行うことで、和紅茶を通じて奈良・日本・世界と視野を広げる幅の広い学びにつながりました。



### 協同した団体

- NPO法人 奈良NPOセンター
- NPO法人 奈良ストップ温暖化の会
- 奈良の学校給食を考える会

### 地域の概要

安全な食、日本の農業が脅かされる社会状況が続いています。また、子どもたちが主体的に体験し、学ぶ機会は多くありません。



### 他団体と協同することで発見したこと

得意分野を持ち寄ることで多くのことが実現できることを体験しました。

参加者募集チラシをどのようなものにすれば興味をもって応募してもらえるか、誰に講師に来ていただければ目的に合った学びを提供してもらえるか、どのようにサポートすれば子どもたちにとって有意義な学びの時間となるか、行政や報道機関の力を借りる方法など、協同の力があつたからこそ実現したことがたくさんありました。遠慮せず「助けて」と言うことで、より良い結果につながるものがたくさんあるのだと知りました。

### 将来イメージ

子どもたちが主体的に学び、考える運営方法で、「食・農・環境」のつながりを実感する体験講座を今後も継続し、企画参加者OBや地域団体・行政の有機的な輪が広がるような活動を目指したいと思います。

### 成果と教訓

#### 成果

子どもたちが、つくる場所（生産、加工）からのむところ（淹れ方、楽しみ方）まで心をつなげること、農と食の連続に気づいてくれたこと、また講座中だけでなく家庭に帰っても家族に紅茶を淹れるなど学んだことが生活に活かされる、身になっていることが成果だと考えています。また、地元生産者や行政と協力して企画運営をすすめたことで連携を深めることができました。

- 取材3件（奈良市ブランド推進課、農山漁村文化協会（雑誌のからの）、奈良県生協連）
- ティーパーティ招待参加者約30名（奈良市長、奈良県知事代理、保護者、友人 他）

#### 教訓

20名定員で参加者を募集しましたが応募が70名あり、定員を25名に増員しましたが多数お断りすることになってしまいました。連続講座ということで申し込みが少ないだろうとの予想に反し多くの方にご応募いただいたことは嬉しい反面、応募が多かった場合の対策を考えておく必要がありました。

# 特定非営利活動法人 いなほ

活動名 | 地域住民が主体となって行う子どもの健全育成等を目的とした共生型「子ども食堂」の立ち上げ、運営支援

## 活動のきっかけ

当法人は、岩手県社会福祉協議会に在籍していた職員が中心となって立ち上げた団体です。住民が地域の中でそれぞれの生きがいを見つけ、自分らしい生活が送れるよう、交流や学びの場を提供する活動を中心に行っています。

以前、学校関係者に行ったヒアリングにおいて、子どもの食事に関する意見が多く、全国で行われている「子ども食堂」の普及を求める声が多く聞かれました。また、食事だけでなく家庭や学校生活に悩み引きこもりがちな子ども達の心の拠り所となる居場所づくりにつなげることを目的とし本活動を開始しました。

## 活動内容概要

盛岡市、滝沢市在住の方を対象に、「食を通した子どもの健全育成」「親の支援」「第三の居場所づくり」を目的に、障害の有無や年齢にかかわらず、子どもから大人まで多くの方が集まるコミュニティの場として、子ども食堂を3か所で計27回開催しました。

※当初2か所24回の予定でしたが開催要望が多く回数を増やしました。



## 協同した団体

- 岩手県生協連合会
- 滝沢市社会福祉協議会
- わらしやん井

## 地域の概要

現在日本全体として、児童の食事について注目されております。貧困、ひとり親世帯、共働き世帯の子どもが一人で、コンビニ飯、給食だけのご飯をとっているという現実があります、それは岩手県においても例外ではありません。



## 他団体と協同することで発見したこと

地域の方々、生協連、社協、行政、企業などと協同で開催しましたが、一機関ではできないことでも、複数の機関や地域の方々が協同することで、不可能と考えられていたことが可能となったり、より内容の濃いサービスが提供できるなど多くの成果がありました。

お互いの得意とする分野を積極的に生かすことで、継続的に関わり続けていくことが可能なのではないかと考えます。

## 将来イメージ

現在行っている活動は、地域の方々が行う地域のものとして活動できることが理想と考えています。そのため、食材や寄付を地域の方や企業から定期的に受けられるよう仕組みづくりに力を入れていきたいと考えています。

また、この活動をもっと広め、複数の地域で同様の活動が行われ、365日どこかで子ども食堂が行われるような地域づくりをしたいと考えています。

## 成果と教訓

### 成果

当初、1回あたり20名程度の参加者を見込んでおりましたが、大幅に上回る延べ654名の方に参加いただきました。また、調理や保育に参加いただいた地域の方々のやりがいにもつながっているようです。

### 教訓

- ①今回、衛生管理面が教訓になりました。地域に根差し、認知され必要とされる活動にするために、衛生面の徹底は必要不可欠だと改めて実感しております。
- ②子ども食堂自体の認知が浸透していないことを改めて実感しております。

マスコミの報道などにより「子ども食堂＝貧困」という間違った解釈がされており、子ども食堂はコミュニティの場であり、誰でも来て良い場であることをなかなか理解していただけませんでした。子ども食堂には先生、行政関係者、弁護士など様々な専門職がスタッフとしてかわることで、家庭で抱える悩み事や課題を解決につなげるきっかけとなる機能を持たせています。このことを周知し、より多くの方が参加しやすく、且つ課題解決につながる場であることをアピールする必要があると感じています。

# コープみらい地域クラブひだまり

## 活動名 | いじめ・不登校・ひきこもりから希望を創る活動

### 活動のきっかけ

医師や親・教員・生協会員・地域の人々が呼びかけ、悩む子どもや親のために遊び、学び、交流する場を運営するために発足しました。

### 活動内容概要

1. 子どもたちと大学生ボランティアが日々居場所で遊び、学び、交流し、これからの生き方を探し創って行く活動を行いました。夏には自然の中で合宿をおこない、子どもたちは元気を回復して行きました。
2. 親の会、電話相談・個別面談などを行い、悩み苦しんでいる親たちが不登校理解・子ども理解を深めながら、子どもに関わり、支えられるよう活動しました。
3. 講演会、連続学習講座、広報活動などおこなって、広く地域に呼びかけ、学び、理解、交流する活動をおこないました。
4. 登校拒否・不登校全国のつどいなどに参加して、全国の活動から学び、地域にその成果を広める活動を展開しました。



### 協同した団体

- 不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』
- 青空の会(我孫子)
- 学校に行かない子を持つ親の会吉川

### 地域の概要

いじめその他、つらく苦しいことになって、学校や外にいけない、家にひきこもっているという子ども・若者は年々増えていますが、相談場所はまだまだ少なく、親が安心して相談に行ったり学んだりできる場所が必要です。



### 他団体と協同することで発見したこと

4団体の世話人が相談を重ね協力し、行事・講演会などを企画実施し交流することで、より大きな力を発揮し、地域への広がりも深まりました。

お互いの団体の活動のねらい・計画・様子・仕組みなど、特徴が見えて、それぞれ学ぶものが多く、たいへん参考になりました。協同することにより、子ども、親たちが抱える悩み苦しみや地域の課題が、さらに見えるようになりました。

### 将来イメージ

子どもの居場所(フリースペース)を利用する子どもたちの年齢が高くなってきている、相談者の子どもの年齢が高くなっている、ということがあり、「社会につながる(就労を含めて)活動」に向けて支え、応援する事業を進めていきたいと考えています。

また、子どもの居場所活動、就労応援活動、親の会活動、電話や来所相談、進路就労相談など、事業をさらに展開して欲しいという要望があり、その要望に応えらるよう、世話人やサポーターを広く求めるとともに、研修や学ぶ機会をつくってお互いに力を育てていきたいです。

### 成果と教訓

#### 成果

- ①子どもの居場所を年間140日開き、さまざまなイベントを子どもたちと共に計画実施し、子どもたちが元気を回復して学校や社会や地域に足を踏み出すようになりました。
- ②電話相談や個別面談では、少しでも今後の見通しが立ち、安心していただけるようにこちらから過去の情報・学びをお伝えしました。
- ③毎月の親の会では、悩みや心配ごとを交流することで、子どもの内面や子どもへの関わり方などが理解できるようになり、子どもも親も明るくなって行きました。
- ④講演会を2回、相談会を1回、6回の連続講座を実施しました。
- ⑤活動の様子、講演記録や作成した資料を配布し、親の会・講演会に参加できない方々、他地域の方々など、多方面の方に読んで頂くことが出来ました。
- ⑥子どもたちが交流し学びあい、親たちが子どもとの関わり方を理解していく中で、学校に行く、働きたいといった社会につながる姿に変化していきました。

#### 教訓

- ①状態を理解し、周囲が適切な関わり方を工夫すれば、苦しんでいる子どもや親たちも元気を取り戻すことがわかりました。ただ、一人ひとりの状況は異なり、心の傷の深さも違います。関わり方が大変難しいケースも多く、一層勉強せねばならないと痛感しています。
- ②利用している子ども・若者たちの意欲や、やる気に依拠し(ていねいな関わりを保ちつつ)、楽しみながら活動する機会をつくると、大きく成長することがわかりました。
- ③多くの団体と力を合わせることで、そして各地の親の会、行政・地域の諸機関、NPO団体、民生委員ほか多くの方々と手をつなぎ、情報を交換し合い、学びあって行く、手助けを得ることによって、問題・課題が切り開かれていくことを体験しました。

## 活動名 | 多世代交流事業「九番サンデー劇場+もちより茶話会」

### 活動のきっかけ

リーマンショック後、九番団地住民が困窮するなかで、自身の居場所を求める声が多く挙がりました。その声を受けて、団地内の空き店舗を借り、成人・子ども向けの日本語教室や子どもの居場所づくりなどをスタートさせました。

### 活動内容概要

九番地団地に居住する日本人・外国人の子どもたち、みなと医療生活協同組合九番団地支部のメンバーが協同して地域住民交流イベントのプログラムを企画し、映画の上映会ともちよりの茶話会を開催しました。

#### 【第1回 九番サンデー劇場+もちより茶話会】

参加者のべ86名

- ・日時：平成29年2月26日
- ・会場：九番団地1棟集会所 参加費：無料
- ・上映映画：午前「みんなの学校」/午後「料理人ガストン・アクリオ」
- ・茶話会では、ペルー人住民によるペルー料理やペルー文化の紹介をおこないました。

#### 【第2回 九番サンデー劇場+もちより茶話会】

参加者のべ70名

- ・日時：平成29年3月19日
- ・会場：九番団地1棟集会所 参加費：無料
- ・上映映画：午前「さとにきたらええやん」/午後「自転車でいこう」



### 協同した団体

- みなと医療生活協同組合  
九番団地支部

### 地域の概要

九番団地は、住民の約3割が外国籍という名古屋市最大の外国人集住地域であり、ブラジルやペルーなど南米出身の方や中国、フィリピン、ミャンマーなどアジア出身の方が多く居住しています。2008年のリーマンショック時には、多くの外国人住民が失業し、同時に苦境にあえぐ家庭や居場所をなくした子どもたちがあふれました。



### 他団体と協同することで発見したこと

これまで九番団地には自治会も子ども会も存在せず、住民同士が顔を合わせる機会がなかなかありませんでした。当団体は「放課後の居場所づくり」を中心に活動をしているため、子どもとのつながりは持っているのですが、大人の方たちとのつながりは今までありませんでした。この事業をきっかけに当団体の子どもたちも団地に住む様々な方々と知り合いになることができ、多様な国籍・年代の方が楽しみながら交流をしていた姿が印象的でした。

### 将来イメージ

もちよりの茶話会がたいへん好評だったことから、今後も定期的に開催したいと考えています。住民が気軽に集まる場を提供することで住民間の顔の見える関係が自然と形成され、今後、団地内で新たな活動が生まれたり、有事の際には協力し合えるような人と人とのつながりが生まれたりすると考えています。

### 成果と教訓

#### 成果

「九番団地」の日本人住民はどちらかというと高齢者が多く、みなと医療生協九番団地支部を中心に団地内でさまざまな活動をしています。放課後の居場所づくりを中心に活動している当団体の活動には、日本人・外国人ともに多くの子どもたちが参加していますが、子どもたちは成人や高齢の方たちと交流をする機会があまりなく、反対に、みなと医療生協九番団地支部には若者の参加が少ないことから、両団体の活動参加者が交流を重ねることで住民同士の「顔の見える関係」が形成され、「安心・安全なまちづくり」につながると考え、「映画上映会」と「もちよりの茶話会」を企画・実施しました。

今回開催した「映画会」では、年代も国籍も関係なく作品を楽しむことができ、また、「茶話会」では、いろいろな国の食べものを試食しながら、知らないもの同士がお喋りを楽しむことができました。今回の事業を実施することで、住民同士のつながりが新たにうまれたり、交流を深めたりすることができました。今後も定期的にイベントを開催し、国籍や年齢を超えた交流を重ね、多文化共生のまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

#### 教訓

当団体の活動日とみなと医療生協九番団地支部の活動日はずれることが多く、企画会議の日程調整が難しいこともありました。また、新聞に掲載していただいたことで集客に成功しましたが、2日間を通して外国人住民の参加は少なく、チラシを多言語で作ったり、口コミを利用したりして、もっと積極的に広報をすればよかったと反省しています。

# 特定非営利活動法人 ユースコミュニティー

活動名 | 地域子ども未来塾(低学力など、学習環境に困難を抱える子どもの学習教室)

## 活動のきっかけ

子どもの相対的貧困率は15.7%と、今や「6人に1人」が貧困状態に置かれ、貧困家庭の高校進学率が一般の世帯と比べて低い実状も明らかになっています。こうした貧困の連鎖を防ぐには子どもの可能性を広げる「教育」が必要であると考え、地域の大人が中心となって学習支援団体を設立させました。

## 活動内容概要

低学力など、学習環境に困難を抱える子どもたちのための専用教室を開催しました。趣旨に賛同してくれたパルシステム東京の大田センターで、毎週月曜日の夜に開催しました。

通信教育の教材メーカーとも提携し、より充実した学習支援活動を行いました。また、子どもの学習を指導するスタッフについても地域の社会人や大学生などで構成されるボランティアの協力を得ながら、子どもに対面で学習指導するとともに、教室の外の課外活動(パルシステムの食材を使った子ども食育・料理イベントなど)も充実させることにより、子どもたちが地域で活躍する場、子どもたちの居場所をつくり、困難を抱える子どもたちの自己肯定感を育むことを目指して一年間取り組みました。



## 協同した団体

- パルシステム東京
- 大田区社会福祉協議会
- セカンドハーベストジャパン

## 地域の概要

大田区は小中学生の不登校児童が約400名にもおよび、その状況も複雑かつ多様化しており、改善に向けてより一層、取組みの工夫が求められている状況です。



## 他団体と協同することで発見したこと

パルシステム東京の協力のもと、地域とより多く触れ合い、そのニーズを詳しく把握することができました。大田区のうち仲池上地域は田園調布など高級住宅地が近いということもあり、比較的裕福なところではあるのですが、学習面についていえば、多様な理由(発達障害・不登校など)で困難を抱える子どもが多くいることがわかりました。また、社会福祉協議会など福祉につなげる活動で、家庭によって様々な困難があることも気づきました。

## 将来イメージ

財政的にも事業収入が増え教室の安定運営の礎を築くことができました。

さらにもう一歩この事業を拡大させたいと考えており、具体的には、生徒も支援者も増えてきたことから、パルシステム大田センターで使用している会議室をもう一つ増やし、計2教室(小学生・中学生に分けるつもりです)で子どもたちの学習を支援し、さらに学習教材を提供するNPO法人e-boardとともに、新たにこの4月から連携を開始します。

こうした活動により、地域の子どもの学びの場・居場所として、協働団体とさらなる連携を深め、精一杯取り組んでいきたいと考えております。

## 成果と教訓

### 成果

生徒が9人にまで増えました。そして都立高校に見事全員(3名)が合格するなどの進学面の成果も出すことができました。また、子どもの学習を見守るボランティアも定着し、活動が大きく前進しました。財政的にも事業収入が増え教室の安定運営の礎を築くことができました。夏(8月)には、パルシステム大田センター祭り(地元生協の組合員さんを招いてのお祭り)に当教室に通う子どもたち(中学生)が実行委員として参加。かき氷コーナーと輪投げ大会を担当し、当日訪れた家族連れをもてなしました(その模様は、パルシステム東京さんの機関紙・小冊子にも取り上げられています)。

スタッフ研修も毎月実施しました。子ども達との信頼関係構築について、パーソナルスペース・セクハラ防止、子どもの学習意欲の動機づけおよび学習目標設定(教育コーチング)、発達障害、学習障害、不登校などの困難を抱える子どもへの支援についてじっくり学び、学習指導の実践に生かしています。

### 教訓

助成を活用した広報によって複数の問い合わせがあり、9名の子ども(小5~中3)が入会しました。eラーニングを使用したビジュアル学習とボランティアスタッフの温かみのある指導・見守りにより、「家でも学習するようになった」「おかげさまで少しですが成績も上がりました」など感謝の言葉も保護者からいただくことができました。そして、中学3年生の3人が高校に見事合格することができました。

# 新潟県立大学南相馬市子ども支援プログラム

## 活動名 | 南相馬市児童クラブにおける「交流おやつタイム」を活用した子ども支援プログラム

### 活動のきっかけ

新潟県内には、福島県南相馬市からの震災避難者が多く、保護者の都合により帰郷する子どもたちも少なくありません。このような背景から、南相馬市の子どもたちへの支援活動は急務であると判断し、とくに福祉的ニーズがあると判断される放課後児童クラブへの支援の実施をすすめています。

### 協同した団体

- 生活協同組合コープにいがた
- 南相馬市教育委員会

### 活動内容概要

福島県南相馬市の放課後児童クラブ(学童保育)を対象に、「おやつタイム」を実施することで、子どもたちの放課後が豊かになるよう支援しました。

その際、おやつ(品物)を届けるだけでなく、新潟県立大学の学生ボランティアや、コープにいがた組合員の協力を受けながら、「人から人へ」おやつパッケージを直接届けて、子どもとおとなが交流する「交流おやつタイム」を企画し、新潟県立大学が、コープにいがたおよび南相馬市教育委員会と協同して、放課後児童クラブ13か所(対象児童約600名)を訪問し、「交流おやつタイム」を実施しました。



### 他団体と協同することで発見したこと

コープにいがたとの協同は、支援を要する子どもたちに安全・安心なおやつパッケージを届けてくれる団体として、被災地で高い信頼を得ていることがわかりました。さらに、南相馬市教育委員会との協同は、対象となる被災地の子どもたちとの信頼関係の構築に寄与するなど、多様な団体との協同することは、「交流」するにあたり非常に重要な意味があることを改めて認識できました。

### 将来イメージ

今回、プログラムを南相馬市教育委員会と協同して実施したことで、現地での定着が見込まれます。申請活動の一部は、これまでも実施されていた活動でもあったことから、将来的には、南相馬市教育委員会主催の活動プログラムへと発展させ、確実な継続性を保持しながら実施することを想定しています。

### 成果と教訓

#### 成果

「交流おやつタイム」は、プログラム実施者と子どもたちとの信頼関係を構築する有効な手段となりました。

子どもたちとは、「またね」と再会の約束をしてプログラムを終了することができ、このような信頼関係にもとづく交流活動は、「いつも気にかけてくれる人達がいてくれる」、という子どもたち自身の喜びと自己肯定感を育み、被災地でもあきらめない強い気持ちと、将来の希望へとつながることを確信しました。

#### 教訓

被災地子ども支援プログラムを進めるには、継続的にかかわることが必要です。そのため、複数回の連続プログラムとして企画したことは有効だったと感じています。しかし、参加者からの期待が大きく、「次回はいつか」と聞かれても、年度が替われば「未定です」と明確に答えることができないのが現状です。

取組みを継続的に進めるためには、複数年の実施が担保されることが必要と痛感しました。

# NPO法人 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト

活動名 | 福島とその近県の子どもたちの保養プログラムと避難者支援および広報・啓発活動

## 活動のきっかけ

東日本大震災後、放射能の不安の中で暮らしている福島の子どもたちに香川の自然の中で子どもらしい時間を過ごしてもらおうとともに、香川県内に福島の状況に心を寄せる人や地域の輪を広げ、息長く支援を続けることを目的に設立しました。

## 活動内容概要

1. 2016年夏休み保養（2016年8月 7泊8日間、うち2泊は車中泊）  
福島県いわき市、西郷村の子どもたち計11人と、海水浴やうどん打ち体験、川遊びなどを行いました。
2. 2016高松市男女共同参画市民フェスティバル「3.11を伝える町 福島『富岡のかたりべ』として」（2016年11月）  
福島県富岡町からいわき市に避難している遠藤義之氏のお話を伺った後、県内支援団体代表も加わって、今、私たちに何ができるかについてパネルトークを実施しました。
3. 森住卓写真展・講演会「福島 放射線を視る」（2017年3月）  
フォトジャーナリスト森住卓氏の写真「福島 放射線を視る」約20点、「風下の村」約20点を展示。あわせて講演会も開催しました。
4. 2017年春休みホームステイ（2017年3月末～7泊8日間、うち2泊は車中泊）  
県内4軒のホストファミリー宅にご協力いただき、福島市、いわき市、西郷村、本宮市の子どもたち計15人と女木島やドングリランド訪問、うどん打ち体験と金比羅宮参詣などを行いました。
5. 「おいでハウス」を利用した保養・移住準備する家族の支援（通年）  
3軒の「おいでハウス」（生活用品のそろった民間住宅）に年間を通じて18家族43人が滞在。移住のための家探しなどを支援しました。

## 協同した団体

- 香川県
- 高松市
- 坂出市
- 香川県教育委員会
- 高松市教育委員会
- 坂出市教育委員会
- コープ自然派しこく
- 高松市消防職員協議会
- 東北ボランティア有志の会香川
- 香川こどもといのちを守る会



## 他団体と協同することで発見したこと

オリーブフェスタで活動報告パネルの展示をさせて頂いた際、多くの参加者が熱心に展示を見てくださり、特に中学生の男の子が関心を持ってくれたのが印象的でした。また、写真展・講演会についても同団体の広報で知ったという参加者が多く、環境問題や社会問題に関心の高い人たちにきちんと情報を届けることの重要性を再認識しました。

## 将来イメージ

震災の記憶や被災地への思いを風化させることなく、「福島と香川をつなぐ」息長い活動を続けていくことを目指しています。今後は次第に各種助成金なども減っていくことが予想され、財政面では厳しくなると思われませんが、受け入れ人数や交通手段、受け入れの形（ホームステイ）なども工夫しながら、持続可能な活動を模索します。また、活動にあたっては活動報告ニュースの発行やパネル展示、被災地の現状を知るための講演会の開催など、多くの方たちに関心をもってもらえるよう情報発信に努めますが、その際、幅広い団体と連携して活動することが大きな力になると思います。

## 成果と教訓

### 成果

夏休み保養では、子どもたちの自主性をできる限り尊重する運営を心掛けました。小さい子も臆せず自分の意見を言ってみんなで議論でき、皿洗いや洗濯物干しなど自分のできる仕事もしていました。また、猛暑の中、幅広い年代の方々から協力を得ることができました。坂出市では初めての活動でしたが、地元のご協力を頂くことができ、県内各地に福島応援団の輪を広げるという目的も達成できました。家族でボランティア参加されたご一家が、企画段階から参加して春休み保養のホストファミリーになってくださるなど、活動の新たな広がりも生まれました。

高松市男女共同参画市民フェスティバルや写真展・講演会では、他団体と協力して広報活動に取り組んだ結果、多くの方に参加して頂くことができました。

### 教訓

地元自治体や地元教育委員会の名義後援を受けることで写真展と講演会のポスターやチラシを各所に掲示・配布することができましたが、手分けして各所を回ってくれたボランティアの広報チームの活躍も目覚ましいものでした。新聞等で報道された写真展初日の記事を見てきたという方や記事で講演会のことを知ったという方も多く、こうしたメディアへの効果的な情報発信とともに、知恵を集め工夫しながら、地道に広報活動に取り組むことが大切だということを改めて実感しました。

# 生活協同組合コープおおいた

## 活動名 | ふくしまっ子応援プロジェクト6

### 活動のきっかけ

東日本大震災から5年目が過ぎましたが、福島では原子力発電所の事故により、海や山など大自然と親しむことがまだまだ難しい状況です。そのため、福島県の子もたちに夏休みを利用して福岡県や佐賀県、そして大分県での九州の自然豊かな大地の中で思いっきり遊び、体験し、子どもたちの笑顔を増やしていきたいとの想いでスタートしました。九州の地元の人たちとのふれあいを大事にし、様々な体験をしながら交流を深めてもらいたいとの思いで活動しています。

### 協同した団体

- 大分県社会福祉協議会
- 大分県ボランティア連絡協議会
- エフコープ生活協同組合
- コープさが生活協同組合

### 活動内容概要

福島県相馬郡新地町の3小学校(福田・新地・駒ヶ嶺)の5、6年生18名と引率の小学校校長と教師2名の計21名を九州に招待しました。

#### 【実施要項】

- 7/22 新地町⇒仙台空港⇒福岡県宗像市(地引網体験・福岡の子もたちとの交流会)
- 7/23 福岡県北九州市(スペースワールド)⇒佐賀県吉野ヶ里町(吉野ヶ里歴史訪問)
- 7/24 佐賀市(トマト・ブルーベリー収穫とジャムづくり)⇒大分市(高崎山・歓迎行事・教育交流会)
- 7/25 大分市(水族館「うみたまご」・海水浴「田の浦ビーチ」⇒CO・OPふらいる歓迎会)
- 7/26 福岡県太宰府市(大宰府天満宮・「梅ヶ枝餅」づくり体験)⇒福岡空港⇒仙台空港⇒福島県新地町



### 他団体と協同することで発見したこと

今年度は、コープさが生活協同組合にも協力していただきました。ふくしまの子もたちの笑顔を見ることが支援活動のささえになっています。気持ちが一つになっていると実感しました。

### 将来イメージ

- ①今後も継続できる取組みをしていきます。
- ②今年度、福岡県、佐賀県で協同して取り組むことができました。今後も他生協とも共同で開催できるように広く呼びかけをしていき、つながりができるようにしていきます。
- ③子どもたちが成長し、大分県で過ごしたことをいつか思い出して、人と人との絆をつくりつづけてほしいと願っています。

### 成果と教訓

#### 成果

4月16日に「熊本・大分地震」が発生し、熊本県と大分県に大きな被害が発生しました。これまで大分県を訪問していただいた福島県の子もたちが、「大分県が被害にあった。何かできることはないだろうか」との思いを持ってくれ、57名の子もたちから励ましのメッセージが届きました。また、子もたちや仮設住宅の皆様が募金を募っていただき、コープおおいたに送っていただきました。はるか遠い福島県と大分県の“心と心がつながっている”と感じました。人と人とのふれあいを通じ、心温まる想いをいただいたことはコープおおいたにとって忘れられない経験となりました。

今年は特別企画として、福島県の小学校の校長先生に現在の復興状況と、震災の時の対応やその後の子どもへの心のケアなど、学校での様々な取組みや経験の講話をして頂きました。学校での防災や減災、災害発生時の取組みなど、福島県と大分県の先生同士の教育交流会を実施することができました。

#### 教訓

暑い環境の中、「気分が悪い」と具合が悪くなる子ももいました。外出時は帽子を忘れず、こまめに水分補給をしたり、適度に塩分補給(ポカリスエットや塩)することに心がけ、熱中症予防に努めていきます。(熱中症になった場合、応急処置の知識を持っておくべきであると反省しています)





# 地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協同する活動を応援します —



## 2016年度 募集のお知らせ

CO・OP共済は、「自分の掛金が誰かの役に立つ」という組合員どうしの助け合いの制度です。コープ共済連はCO・OP共済を通じて豊かな社会づくりをめざしています。その活動の一環として、生協と地域のNPOやその他の団体が協同して地域の暮らしを向上させる活動を支援します。全国の生協、NPO、その他の団体の皆さまからの多数のご応募をお待ちしています。

### 応募期間

2016年2月1日  
～3月5日

### 応募条件



### 活動テーマ

以下①～③の対象となる活動のテーマいずれかに該当すること

### 必須条件



生活協同組合とNPO・ボランティア団体等が協同した取り組みであること

### 対象となる活動のテーマ

#### ①「暮らしを守り、暮らしの困りごとの解決に資する」

**例** 地域住民による高齢者等への生活支援のコーディネート、障がい者の就労支援、震災による避難者へのカウンセリングの取り組みなど

#### ②「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」

**例** 病気やケガで治療中の方やそのご家族への治療に専念できる環境の提供や、治療中における精神面でのサポートを通して生活の質の向上を目指す取り組み、病気の予防や早期発見を目的とする啓蒙活動など

#### ③「女性と子どもが生き生きする」

**例** 子育てひろばの開設・運営、出産後の再就職や社会復帰を支援する取り組み、DV被害者からの相談を受け付ける活動など

※東日本大震災の支援に関わる以下テーマの活動については、選考で優先して取り扱う場合があります。

### 必須条件～生協と他団体の協同～

次の①、②いずれかを必須とします。

- ①生活協同組合以外の団体(NPO法人等)が応募し、活動内容が「生活協同組合と協同して行うもの」である
- ②生活協同組合が応募し、活動内容が「生活協同組合以外の団体と協同して行うもの」である

- 日本国内を主たる活動の場とする団体を対象とします。
- 今後設立予定の団体でも構いません。
- 「協同して行う」とは、受注委託の関係ではなく、対等平等で企画を一緒に作り、ともに活動する関係をいいます。

### 〈対象とならない活動〉—以下、例—

- ※左記の①～③のいずれのテーマにも合致しない活動(環境問題等)
- ※生活協同組合同士の活動(100%子会社も含む)
- ※生活協同組合単独もしくはNPO単独の活動

### 対象となる活動期間

2016年度は、原則2016年4月1日～2017年3月31日の間に実施する活動が対象です。なお、審査委員が認めた活動に限り、複数年の活動に対して助成を行うことがあります。



## 助成内容

助成額は、1事業あたり最大100万円を基本としますが、審査委員が認めた活動に限り、それ以上の助成額になることがあります。

助成総額は2,500万円を予定しています。

### ●助成の対象となる費用●

- 活動に直接関わる経費(資材費、消耗品購入費、旅費交通費、借上費、印刷製本費など)
- 謝礼金(講師謝礼、指導料など)

### ●助成の対象にならないもの●

- 飲食費、接待費
- 助成を受ける事業以外の運営に係る費用
- 営利を目的とする事業
- その他、審査委員会が不適切と判断したもの

## 選考

同一の団体に複数年に渡り継続助成を行う場合、原則として3年を上限とします。また、申請より一部減額での助成となる場合もあります。

選考にあたり、ヒアリング調査をおこなう場合があります。

## 応募スケジュール

- 応募期間：2月1日～3月5日
- 審査委員会：4月
- 結果通知：5月下旬  
(第一報はメールで通知します)
- 助成金の振込：7月下旬

## 活動報告

助成を受ける団体には、活動報告書をご提出いただきます。その他に、活動状況のヒアリングや取材受け入れをお願いすることもありますので、ご協力をお願いいたします。

活動報告は、コープ共済連のホームページや冊子等に掲載し、ご紹介させていただきます。

## 応募方法、提出書類

### ①応募用紙の入手方法

コープ共済連のホームページよりダウンロードいただくか、下記のお問い合わせ先まで電子メールかFAXにてご請求ください。

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2016.html>

※ご請求の際には、団体名、郵便番号、住所、送り主の方の氏名、電話番号を明記してください。

### ②応募方法

応募にあたっては、以下の書類を事務局宛にご送付ください。(Email、郵送のみ可)

応募団体へは事務局から書類受領通知をメールにて行います。3月末までに受領通知が届かない場合、事務局までお問い合わせください。

※FAX、持参による提出は受け付けておりません。

- 応募用紙
- 定款など  
(定款は応募団体がコープ共済連の会員生協である場合、ご提出は不要です。ご不明な場合はご相談ください)

### お問い合わせ先

## 日本コープ共済生活協同組合連合会

渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

TEL 03-6836-1320 (平日10:00~17:00)

FAX 03-6836-1321

メール [contribution@coopkyosai.coop](mailto:contribution@coopkyosai.coop)

### 応募書類提出先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

コープ共済連 渉外・広報部

地域ささえあい助成事務局宛

過去の助成団体活動内容はホームページでご案内しています。

コープ ささえあい 報告集 検索

URL <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/report.html>



**CO・OP共済 地域ささえあい助成  
2016年度 活動報告集**



発行日：2017年9月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会  
(渉外・広報部)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13

電話 03-6836-1320

